

## 第4節 各教科等における取組

### 1 日々の教育活動とキャリア教育

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践される。この点について、平成23年1月にとりまとめられた中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」は次のように指摘している。

キャリア教育は、現在の学校教育を見直す理念を示すものであることから、その活動は特定の新しい教育活動を指すものではなく、学校教育全体の活動を通じて体系的に行われる必要がある。特に、子ども・若者が実社会を体験し、それを基に自ら考える活動が不可欠である。しかし、「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動等の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されている。

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))

効果的な職場体験活動の在り方については本『手引き』第2章第5節において詳しく解説したが、上に引用した答申が指摘する通り、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものにとらえることは誤りである。日々の教育活動の中で、一人一人の生徒の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促していくことが求められている。このような視点から見ると、これまでの中学校教育におけるキャリア教育の取組は必ずしも十分とは言い難い部分がある。それぞれの教員が、キャリア教育の視点から自らの教育実践を幅広く見直すことによって、各学校の進むべき方向が共有されるとともに、教育課程の改善が促進されると言えよう。

各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動が、それぞれ社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力としての「基礎的・汎用的能力」の育成にどのように貢献できるのかを考え、実践に移すためには、まず学習指導要領に示される各教科等とキャリア教育との関連性について正しく理解し、その上で、各教科等の特質と単元や題材などの内容を生かした創意・工夫が必要となる。また、各教科等における取組は、相互に関連性を持たないままでは効果的な教育活動とはなりにくいことから、取組の一つ一つについて、その内容を振り返り、相互の関係を把握させたり、それを適切に結びつけさせたりしながら、より深い理解へと導くような取組も強く期待されている。

### 2 本節の構成と活用方法

本節では、それぞれの教科等に分かれた教員研修などの機会での活用が促進されるよう、各教科等について4ページ構成を基本として、コンパクトにまとめた。まず前半2ページでは「各教科等を通じたキャリア教育の基本的な考え方」と「3年間を通じた各教科等の指導内容とキャリア教育」について解説した。指導内容との関連を整理するに当たっては、今後のキャリア教育実践にとって中核となる「基礎的・汎用的能力」の育成に焦点をあてている。また、後半のページでは、特定の単元や題材などに絞って実践例を示した。特に教科については、「他教科における学習と関連づけた指導」について簡略にまとめた欄を設け、教科間の取組を適切に結びつけるための糸口を示した。各学校においては、ここに示した各実践例を、いわば「たたき台」として、それぞれの学校の特色や生徒の実態等に即したキャリア教育の推進に役立てていただきたい。

また、各教科等を通じたキャリア教育の実践経験の長短にかかわらず本節を活用していただけるよう、できるだけ平明な文章表現とし、文体も敬体に統一した。

# 国語

## 1 国語科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1) 国語科における言語活動とキャリア教育

国語科では、今回の学習指導要領の改訂により、改めて言語活動の充実が強調されています。国語は、言語に関する能力育成の中核を担う教科として、生活や学習に必要な能力を身に付けるための言語活動例が「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の内容に明示されたわけです。特に、「A話すこと・聞くこと」の指導内容については、キャリア教育に関連する主な目標・内容等の例とも関連が深く(第2章第3節参照 p.70)、国語科を通してキャリア教育を実践する上でのポイントとなります。

### (2) 「話すこと・聞くこと」の実践を通じた「人間関係形成・社会形成能力」の育成

キャリア発達にかかわる基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる力です。さらに、自分のおかれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力でもあります。つまり、相手の立場や考えを尊重し合うことのできる能力を基本としています。したがって、「人間関係形成・社会形成能力」の育成は、実際に話したり聞いたりする音声言語活動を重視することが大切です。学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」に関する各学年の目標では、冒頭部分に「目的や場面に応じ」と示されています。常に目的意識や場面意識をもって「話す」「聞く」ことにより、生徒は目的や場面の状況を踏まえ、相手に応じて生き生きと話したり、聞いたり、話し合ったりすることができる能力と、豊かな人間関係を築いていくことのできる能力を身に付けられるのではないかと考えます。

以下は、『中学校学習指導要領 国語』(平成20年3月告示)に示された各学年の目標及び第1学年の言語活動例の中から、キャリア教育とかかわりの深いと思われる部分を抜粋し、例示したものです。

#### 中学校学習指導要領 国語 《抜粋》

#### 第2 各学年の目標及び内容

##### 【第1学年】 目標

- (1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

##### 【第2学年】 目標

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

##### 【第3学年】 目標

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

##### 言語活動例 【第1学年】

- ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。
- イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。

## 2 中学校3年間を通じた国語科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

中学校の国語科では、言語の教育としての立場を重視し、「伝え合う力の育成」「思考力・想像力の育成」「言語感覚を豊かにすること」「国語を尊重する態度の育成」を教科目標として、3年間を通じた系統的な指導を行います。国語科の指導内容には、キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力としての「人間関係形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」といった、主要能力との関連も含まれています。教科指導に当たっては、キャリア教育との関連を確認し、生徒の発達の段階に応じた指導を行うことがキャリア教育の推進にもつながります。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する国語科の指導内容の例

学年 /能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
第1学年	「話すこと・聞くこと」 ・全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話す。	「話すこと・聞くこと」 ・質問しながら聞きとり、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。	「書くこと」 ・考えや気持ちを、根拠を明確にして書く。	「読むこと」 ・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取る。
第2学年	「話すこと・聞くこと」 ・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す。	「読むこと」 ・文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	「書くこと」 ・説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く。	「読むこと」 ・多様な方法で選んだ本や文章などから、適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。
第3学年	「話すこと・聞くこと」 ・場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使う。	「読むこと」 ・文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ。	「話すこと・聞くこと」 ・資料などを活用して説得力のある話をする。	「書くこと」 ・社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫する。

※〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導と関連させて指導することが基本になる。

言語に関する能力の育成は、国語科に課せられた大きなテーマです。生徒の発達の段階に応じて、系統的な指導に取り組む必要があります。指導に当たっては、言語活動を通して指導することが重要であり、各領域の内容に示された「言語活動例」を活用します。

キャリア教育で育成する「基礎的・汎用的能力」という視点でとらえると、国語科での言語活動は大きなカギを握っていると言えます。それは、「人間関係形成・社会形成能力」ほか、三つの能力の育成に当たっては、いずれも、言語活動を通して国語科で培う力が必要不可欠であるからです。国語科では、他教科等の学習の基盤となる能力の育成をするという意識をもって日々の授業に臨むことが、「基礎的・汎用的能力」の育成にもつながると考えます。

《第1学年》 相手の反応を踏まえながら、わかりやすく発表をする

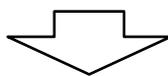
気になるニュースを発表しよう

ねらい

社会で起きている「気になるニュース」について自分の考えや感想を明らかにした解説を加え、聞き手の反応を踏まえながら、分かりやすく伝える。

本実践とキャリア教育

伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためには、自ら話す内容を選び、調べたことを適切に構成し、表現する学習を体験させていくことが有効です。話題については、最近のニュースを取材対象とすることで、社会に目を向け視野を広げることができます。社会的視野を広げ、相手の意見を聞いて自分の考えを明確に伝える力を身に付けることは、キャリア教育と深くかかわります。



全体構想

※学習指導要領との関連

「A 話すこと・聞くこと」

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注目して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

(言語活動例)

ア 日常生活の中的话题について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

主な学習活動	時数
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3人一組程度のグループを作り、互いに最近の「気になるニュース」を挙げ、そのニュースを選んだ理由等を発表、質問し合いながら話し合い、ニュースを一つに絞る。</li> <li>○ 絞り込んだニュースについて、分担して調べ、グループ内で話し合いながらまとめる。</li> </ul>	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 選んだニュースについて、全体と部分、事実と意見との関係に留意しながら、分かりやすく発表する。</li> <li>○ グループ内で一人ずつ発表し、聞き手はメモをとりながら交互に助言する。</li> </ul>	1
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ほかのグループに対して、グループの代表者が発表する。(ローテーションにより発表)</li> <li>○ 聞き手はメモをとりながら聞き、発表後に発表の内容や感想を述べる。(交互に聞き取る)</li> <li>○ 発表者は、聞き手からの助言を聞き、改善点を明らかにする。</li> </ul>	1



<道徳>  
2-(5)  
いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち、謙虚に学ぶ

●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

本単元を通したキャリア教育の更なる充実に向けて、理科・第一分野「科学技術と人間」と関連させることが考えられます。例えば、現代の科学技術に関する新聞記事を収集し、それを資料として人間生活とのかかわりをテーマとしたディスカッションやグループ発表を行います。生徒は、発表を通して科学技術の発展と日常生活とのかかわりや様々な職業との関係についても認識を深められるのではないのでしょうか。

## 《本時のねらい》

グループで選んだニュースをわかりやすく伝えるために必要な内容を助言し合う。

## 《展 開》(2/3時間)

過 程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
		配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	1 前時にグループで選んだニュースと調べ合った内容について確認する。	◎選んだニュースの内容確認を通して、社会に目を向け、社会的視野を広げさせる。
展 開	2 選んだニュースの解説をしていく上で必要な内容を、話し合っ決めて。 3 2で挙げられた内容の中からグループとして発表するために「これだけは伝えたい」と思う内容を選び、各自が文章にして発表し、助言し合う。 4 3を基にして各自でスピーチメモを作成する。 5 「スピーチメモ」を基に各自が発表し、聞き手によりよく伝わる構成について話し合う。	○ 伝える事実に自分たちのどの考えを付け加えるか話し合うように指示する。 ◎ 解説の要点と言える内容を文章化させ、確実に伝わるように構成を考えさせる。 ◎ スピーチメモの活用を通して、聞き手に分かりやすく伝えるために、構成を工夫することの重要性に気付かせる。 ○ 適宜各グループを回り支援を行う。
ま と め	6 「スピーチメモ」をもとに、グループとして発表のリハーサルをする。	☆ 事実と意見との関係に注意するなど発表が構成されているか。

## ●実践のポイント●

伝え合う力の育成は、国語科の教科目標の一つであるとともに、キャリア教育が目指す、社会的・職業的自立に向けて、必要な能力等を育成するためにも欠かすことができません。国語科では、様々な言語活動を通して、どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、相手の話を正確に受け止めるためにはどのように聞き取れば良いのか、といった具体的な実践を展開します。

例えば、本実践では「これだけは伝えたい」という内容をグループで話し合っ決定し、分担して、スピーチメモを作成しています。これにより、実際のスピーチで伝えたい内容がどれだけ聞き手に伝わったかということを確認することが容易になります。また、聞き手が積極的にメモをとる場面を作ることで、聞き手からの助言がしやすくなり、適切な助言の内容が期待できます。生徒に話し手と聞き手の両方の立場で学習を体験させていくことは、社会生活につながる、より実践的かつ効果的な学習活動であり、キャリア教育の推進にもつながるはずです。

# 社会

## 1 社会科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1) 社会科の学習で身に付ける力

社会科は、様々な社会的事象から課題を設定し追究していく中で、個人と社会とのかかわりについて理解を深め、社会的な見方や考え方の基礎を形成するとともに、社会の変化に適切に対応し、その中で自ら学び、自ら考える力を養うことを目指しています。このことは、基礎的・基本的な知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等を養うことなど中学校学習指導要領で理念として掲げられている、いわゆる「生きる力」をはぐくむことにも通じるものであるといえます。

現代社会は、情報化や国際化などの波が急速に押し寄せています。地球規模でこれほど早く社会が変革し、価値観の多様化が進む中にあることは、自己を確立し、目標達成や自己実現に向けて粘り強く努力し続ける力や態度の育成が一層重要になります。

これらのことを背景に、社会科の学習では、社会的事象を一面からとらず、様々な角度から総合的に考察したり、それらに関連付けたりする多面的・多角的な見方や考え方など社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる能力や、自らの考えを分かりやすく他者に伝える表現力などを育成することが強く求められています。

### (2) キャリア教育の視点から見る社会科

社会科において、新学習指導要領の理念を実現するために必要なこととして、知識や概念、技能を確実に身に付けるとともに、思考力、判断力、表現力などそれらを活用して探究する力を養う観点から、各種資料からの必要な情報の読み取りや社会的事象の意味や意義の解釈、様々な事象の特色の説明と自分の考えの論述などの学習を通して、社会の一員として様々な事柄に主体的に参画する資質や能力を育成することが挙げられます。この点において、社会科はキャリア教育と深くかかわっているといえます。

以下は、『中学校学習指導要領』（平成20年3月告示）に示された社会科の各分野の目標の中で、キャリア教育とのかかわりの深いと思われるものを挙げたものです。

#### 中学校学習指導要領 社会 《抜粋》

##### ① 地理的分野

(2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。

##### ② 歴史的分野

(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

##### ③ 公民的分野

(2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

ここに挙げた社会科の各分野の目標が示すように、社会科を通して育てたい能力や態度は、社会の一員としての自覚を深め、自らの課題に積極的に取り組み、それを主体的に解決していこうとするキャリア教育の視点から身に付けさせたい力とも重なるものと考えられます。

## 2 中学校3年間を通した社会科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

社会科の学習は、「単なる知識の習得」にとどまらず、生徒が自ら様々な社会的事象から課題を見いだし、その課題を解決するために、身に付けた知識や技能を活用して追究・まとめ・発表する過程を通して、社会に対する関心を高めるとともに、社会の形成者として望ましい態度を身に付けることを目指しています。

このことは、「生徒が『生きる力』を身に付け、激しく変化する社会の中で、それぞれが直面するであろう様々な問題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする」キャリア教育の意義と深く結びつくものです。

### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する社会科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題追究の中で、様々な意見を取り入れて考えを深める。</li> <li>・ 地域の一員として地域の課題に取り組み、自分なりの解釈を加えての論述や意見交換をする。</li> <li>・ ポスターセッションなどで互いの意見を交換する。</li> <li>・ 郷土の施設の活用や地域の人々とのふれあいをもつ。</li> <li>・ 現代社会と自分の生活とのかかわりについて考える。</li> <li>・ 現代社会の課題とその解決策について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本と世界の諸地域、都市部と農村部など地理的特色をとらえる上で、様々な視点があることに気付く。</li> <li>・ 身近な地域の歴史など様々な視点から歴史をとらえる。</li> <li>・ 歴史的事象や歴史上の人物のつながりをとらえる。</li> <li>・ 自由と権利、責任と義務の関係について理解し、現代社会の仕組みについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な統計資料や地図を比較・関連させることによって、資料の読解力や読図力、作図力を身に付ける。</li> <li>・ 調査や観察の結果を主題図やグラフなどにまとめる。</li> <li>・ 年表を使って時代の流れをまとめる。</li> <li>・ 歴史的事象の背景などを解釈する。</li> <li>・ 歴史的事象の原因や結果などを自分の言葉でまとめる。</li> <li>・ シミュレーションやロールプレイなどを通して、様々な社会事象の仕組みを理解し、より良い在り方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な産業の種類や内容、課題などについて理解し、そこでの生活の様子に目を向ける。</li> <li>・ 日本や地域が抱える課題や将来像について考える。</li> <li>・ 日本の伝統や文化への関心を高める。</li> <li>・ 人々の日々の営みに目を向ける。</li> <li>・ 歴史上の人物の生き方について自分と比較して考える。</li> <li>・ 社会生活の様々な仕組みや現代社会の課題について理解し、身近な生活や自分の将来と結び付けて考える。</li> </ul>

学習を進めるに当たって、中学校3年間を通し地理的分野と歴史的分野において、調査学習などを通して、資料分析や活用の基礎を身に付けるとともに、日本や世界の地域的特色や歴史への関心をもたせます。また3年生では公民的分野において、より身近な社会生活を題材に政治や経済、現代社会の抱える課題などについて学ぶ中で、社会の一員としての自覚をもち、社会と自分とのかかわりについて考えながら、将来に目を向けて積極的に行動しようとする姿勢を身に付けさせます。

## 《公民的分野》 日常生活と経済との関係を考えさせる

### 私たちと経済

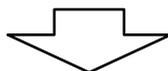
#### ねらい

身近な具体例をもとに、調査・話し合いを行い、流通や商業に携わる企業の努力や地域での役割を知るとともに、今までの生活体験を参考に、出店計画を立てることで、自分たちの日常生活と経済との関係について自ら考えようとする態度を養う。

#### 本実践とキャリア教育

本単元では、身近で具体的な事例を取り上げて経済活動の意義や市場経済の基本的な考え方について理解することをねらいとして、生徒が日常生活で利用する機会の多い「コンビニエンスストア」を取り上げ、その発展から流通の仕組みや経済活動の意義などを考える学習活動を計画しました。

コンビニエンスストアは、現在小売店として利用されるほか、若者のアルバイト先や地域のコミュニティセンターとしての役割を果たしています。また、環境問題などへも積極的に取り組んでいて、この点からも、企業の役割や社会的責任など経済活動に対する様々な視点をもつ格好の教材になると思います。地域の産業や消費生活について考えることで、地域社会の一員としての自覚をもつとともに、将来に向けて、目指すべき職業を選択する力や将来の職業人として必要な資質など、キャリア教育に関連する諸能力を身に付けることが期待できる単元と考えられます。



### 全体構想

主な学習活動	時数	
<b>ハンバーガーショップの経営者になろう</b> ・各グループで、ハンバーガーショップの出店場所を地図と資料をもとにして話し合う。	1	<道徳> 2-(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。 4-(5) 勤労の尊さと意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
<b>消費と貯蓄</b> ・消費活動における商品の選択について考える。 ・所得と消費と貯蓄の関係について理解する。	1	
<b>消費者の権利と自立の支援</b> ・消費者主権と企業の責任について考える。	1	
<b>流通の仕組み</b> ・流通の仕組みや合理化について、コンビニエンスストアなどの小売店を例に考える。	1	
<b>生産の仕組み</b> ・企業の役割や社会的責任について知る。	1	
<b>コンビニエンスストアから経済を考えよう</b> ・各グループで地元のコンビニエンスストアを調査し、それぞれの店の特色や工夫などを発表する。 ・企業の社会的責任を視野に入れ、地域の中での望ましい店の在り方を考え、出店計画を立てる。 ・各グループで出店計画の報告会を行い、自分の店の経営方針や工夫などを分かりやすく発表する。	3	<総合的な学習の時間> ・地域の企業や施設を訪問し、様々な生き方を探る。  <総合的な学習の時間> <特別活動・学校行事> ・5日間の職場体験活動。

#### ●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

技術・家庭科「私たちの消費生活と環境」での学習を参考に、小売店側の立場だけでなく、消費者の側や環境保全など様々な視点から望ましい店の在り方を考えさせていきます。そこから、地域の中での自分の役割を考え、よりよい生活を目指す態度を養いたいと思います。

《本時のねらい》

- ・ 出店計画について、積極的に話し合い、より良い出店場所を選ばせる。
- ・ 地域社会との連携など様々な視点から、地域の中での望ましい店の在り方について考えさせる。

《展 開》(7/8時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	1 今までの学習を確認する。 ・ 地域のコンビニエンスストアを紹介する。	○各グループの発表から、コンビニエンスストアの様々な経営の工夫などを確認する。
展 開	2 本時の課題を確認する。	○出店場所の候補地を地図で提示しておく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">                     私たちの街のどこにどんなコンビニエンスストアが必要か？                 </div> 3 各グループで出店計画を立てる。 「私たちの住む地域に『コンビニエンスストアを新たに出店する』としたら」 ① 出店場所を考える ・ どこに出店するか。 ・ なぜこの場所にしたのか。 ・ この場所だとどんな利点があるか。 ② どんな店が良いのか ・ 自分たちが出店する店の理念や方針を立て、キャッチフレーズを考える。	◎利用者割合や年齢構成などの資料を参考に、より良い出店場所を決めるようにする。 ☆資料をもとに、コンビニエンスストアの出店計画について、各班で積極的に話し合いを進めさせる。 ○アンケートの結果やコンビニエンスストア各社の企業理念や社会貢献活動などを紹介し、地域とのつながりにも目を向けさせる。 ◎自分の生活する地域と経済の関係から、社会の中に様々な見方や考え方があることに気付かせる。
ま と め	4 地域に合った店とは、どんな店なのか。自分の考えをまとめる。 5 自己評価をする。	☆地域の中での望ましい店の在り方について考えることができる。

●実践のポイント●

・ 身近な地域を教材化しましょう

この実践例は、身近なコンビニエンスストアを教材として取り上げました。社会科では、地域に目を向けることも大切な観点です。自分たちの生活と結びつくものから視野を広げていくことは、日ごろ、実感できていない社会の様々な動きを体感できる貴重な機会になります。

そのために、地元の施設や人材などの教材化を図りましょう。

・ 学習形態を工夫しましょう

課題の追究・解決の方法として、インターネットや文献調査、聞き取り調査、体験など様々な方法があります。また個人調査やグループによる調査、話し合いなど様々な形態があります。それぞれが大切ですが、学習活動のねらいに合った学習形態を取ることで、より効果的に生徒の考えを引き出し、学習に深まりが出ます。

# 数学

## 1 数学科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

平成20年に改訂された中学校学習指導要領では、数学科の目標を次のように定めています。

### 第1 目標

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

目標の冒頭に掲げられた「数学的活動」という用語は、平成10年に改訂された中学校学習指導要領に初めて登場しました。数学的活動は、具体物を用いて考えたり、実際に体験したりするなどの活動から、思考を中心とした活動までの幅広い範囲の活動を含みます。生徒にとって、このような活動は授業を楽しくし、多様な手法を用いて考える良さや面白さを体験する機会となります。

この数学的活動の中でも、とりわけ目を引くのが、「説明し伝え合う活動」です。小学校第2学年にはじめて登場し、その後、中学校第3学年まで各学年それぞれにおいて「説明し伝え合う活動」が求められています。小学校における算数の学習と中学校における数学の学習が、「説明し伝え合う」という共通の手段によってつながることで、学習が一連の流れをもち、教育活動の質が高まることが期待されます。また、その学びを各教科等における学びとつなげ、キャリア教育の全体計画・年間指導計画に位置付けて系統的、計画的に進めることにより、生徒の学びをより深めることができます。

### 算数的活動・数学的活動における「説明する活動」の例

- 〔小学校第2学年〕 加法と減法の相互関係を図や式に表し、説明する活動
- 〔小学校第3学年〕 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- 〔小学校第4学年〕 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- 〔小学校第5学年〕 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- 〔小学校第6学年〕 分数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動
- 〔中学校第1学年〕 数学的な表現を用いて、自分なりに説明し伝え合う活動
- 〔中学校第2学年〕 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動
- 〔中学校第3学年〕 数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う活動

また、平成20年度に改訂された中学校学習指導要領では、「資料の活用」の領域が新しく設けられました。数学は、方程式を解いたり、図形の性質を証明したりするように答えや結論が明確に定まることだけを考察の対象にしているわけではなく、全体を把握することが困難だったり、偶然に左右されたりする不確定な事象も考察対象とします。加えて、考察の結果ただ一つの正しい結論が導かれるとは限らないことなどを実感を伴って理解できるようにするという目的で本領域が創設されました。この領域については、社会科や理科、保健体育科、技術・家庭科などの各教科や総合的な学習の時間との関連が深く、職業や日常生活に関連した資料を扱い、現代社会の課題などについて考えをまとめ、発表するなど、キャリア教育の視点で学習を進めることも期待されます。

## 2 中学校3年間を通した数学科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

中学校数学科の3年間を通した指導内容には、キャリア教育ではごくむ基礎的・汎用的能力としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に関連する項目が含まれています。この4つの能力を参考にしつつ、教科が抱える課題を踏まえて具体的な取組を設定することが必要です。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する数学科の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
数学的活動を例にして (第1,2,3学年を通して)		「A数と式」を 例にして	「B図形」を 例にして
<p>数学における「説明し伝え合う活動」では、問題を考察する際、自己内対話に終始せず、他者に説明し伝え合いながら学習を進めることで、一人では気付かなかった新しい視点を得られたり、考えを質的に高めたりすることができます。</p> <p>このような経験は、仕事をする上で基礎となるコミュニケーション・スキルの育成につながります。</p>	<p>数学的活動は、基本的に問題解決の形で行われます。</p> <p>そこでは粘り強く考え抜くことが必要になり、成就感や達成感などをもとにして自信を高め自尊感情をはぐくむ機会も生まれます。</p> <p>子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力は、このような活動を通して得られると考えられます。</p>	<p>第1学年における文字の学習は、現実の世界における事象を数学の世界における関係として記述する手段として大きな意味をもちます。</p> <p>この文字の学習により、連立二元一次方程式(第2学年)、二次方程式(第3学年)などの手段を得、考察の対象が広がるとともに、様々な事象の本質的な関係をより簡潔かつ明解にとらえることができます。</p> <p>このような学習を通して、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力がはぐくまれます。</p>	<p>図形や空間についての学習では、第1学年で論理的な考察と論証及びそれを表現することへの関心や意欲を高め、第2学年では、論理的に筋道を立てて正しい推論ができるようにします。そして、第3学年では、図形に対する直観力や洞察力とともに論理的に考察し表現する能力を伸ばします。</p> <p>このように、段階的にかつ目的を明確にして学習を進めることで、その良さを実感することができます。そして、将来、社会における様々な課題に取り組む際も、自ら段階的に目標を定め、進んでいこうとする態度を養うことができます。</p>

キャリア教育では、各教科等の取り組むべき重点や方向性を教育課程全体に位置付けて考えることが重要です。その際、各教科が上記の4つの能力における視点でそれらをとらえ直すことにより、学校全体で生徒にどんな能力を付けるのかが明確になります。数学の指導では、「A数と式」、「B図形」、「C関数」及び「D資料の活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、数学的活動に取り組む機会を設けるものとされていますが、例えば「人間関係形成・社会形成能力」の具体的な要素であるチームワークやリーダーシップなどをはぐくむという視点で活動を組み立てることで、各領域が有機的につながりを持ち、また3年間を通した全体計画にも適切に位置付けることができるようになります。

《第2学年》 数学を利用して、未来を予測する

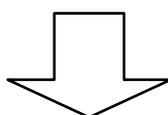
一次関数

ねらい

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

本実践とキャリア教育

本単元では、変化の様子を動的に見るという関数の考え方を使って、電車の運行状況について考える学習をします。その際、式による表現、表やグラフによる表現など、様々な表現方法を適切に用いることで、多様な問題解決の手段について考えを深めます。この学習によって、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝える力がはぐくまれます。



全体構想

主な学習活動	時数	
二元一次方程式のグラフ	6	⇔
二元一次方程式のグラフのかき方		
連立方程式とグラフ		⇔
一次関数の利用		
図形と一次関数		
一次関数のグラフの利用《本時》		

<道徳>  
2-(5)  
それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。

<総合的な学習の時間>  
「学習方法に関すること」  
・仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する。  
・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。

●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

本単元で扱う「グラフ」は、国語では「資料や機器などを効果的に活用して話すこと」、社会科では「主題図」、そして、理科では、「観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の充実」において扱われています。本単元でグラフを式や表などと関連付けて考察することにより、他教科の学習でもより多角的な見方や考え方ができるようになると考えます。

《本時のねらい》

- ・問題解決において、多様な方法で考えることの良さを実感し、聴き手が理解しやすい説明をすることができる。

《展開》(6/6時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)												
導入	<p>1 課題の確認</p> <table border="1" data-bbox="284 753 837 913"> <tr> <td></td> <td>上り普通A</td> <td>下り特急B</td> <td>下り普通C</td> </tr> <tr> <td>P駅</td> <td>9:04</td> <td>9:22</td> <td>9:38</td> </tr> <tr> <td>Q駅</td> <td>9:24</td> <td>9:12</td> <td>9:18</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">※P駅, Q駅間は20km</p> <p>「A, B, Cの列車がそれぞれ一定の速さで走るとすると、上り普通Aは、下り特急Bや下り普通Cといつどのあたりですれ違うだろうか。」</p> <p>2. 表から読み取れることを考え、発表する。</p>		上り普通A	下り特急B	下り普通C	P駅	9:04	9:22	9:38	Q駅	9:24	9:12	9:18	<p>○説明は最小限にとどめ、解決に向けての多様な方法が挙げられるようにする。</p>
	上り普通A	下り特急B	下り普通C											
P駅	9:04	9:22	9:38											
Q駅	9:24	9:12	9:18											
展開	<p>3. 関数やグラフを利用して考えるなど、いろいろな方法で課題を解決する(グループ学習)。</p> <p>4. 発表</p> <p>5. 関数やグラフなどを利用した解決方法についてそれぞれの良さを考える。</p>	<p>☆多様な方法で考えようとしている。</p> <p>◎仲間と協力して課題を解決できるようにする。</p> <p>◎聴き手が理解しやすい説明を心がけるよう助言する。</p>												
まとめ	<p>6. 問題を解決する方法は1つであるとは限らず、それぞれの方法の良さを理解し、適切に使い分けたり、併せて使ったりすることで、物事に対して、多角的な見方ができることを知る。</p>	<p>◎☆問題解決において、多様な方法で考えることの良さを理解したか[自己評価]</p>												

●実践のポイント●

・日常生活との関連を図りながら進めましょう

日常生活とのかかわりの深い題材を扱うことで、教科の学習内容の広がり意識させましょう。また、できるだけ他教科の学習内容に触れながら授業を進め、学習の意義に関する認識を高めるようにしましょう。

・説明し伝え合う活動を生かしましょう

協力して問題に取り組むことで多様な方法が生まれ、解決に近づいていくことを具体的な操作と、説明し伝え合う活動などを通して実感させましょう。

# 理科

## 1 理科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

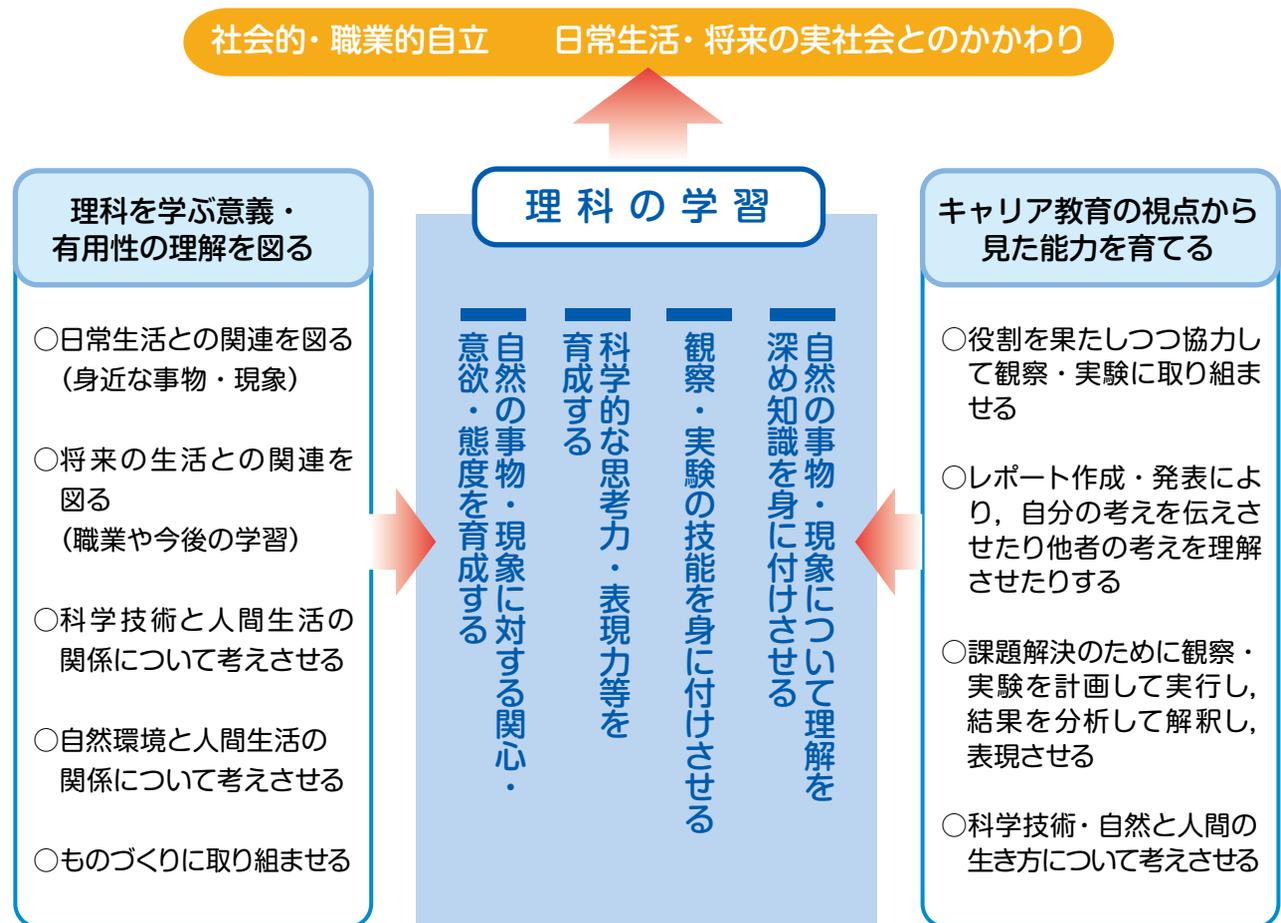
私たちの生活の中には、理科で学ぶ様々な内容があらゆる場面にあふれており、科学の原理や法則を利用した機器も数多く使用されています。現代の文明は、科学技術がなくては成り立ちません。また、自然と人間の調和のとれた生き方を考える上でも理科を学ぶ意義は大変大きいといえます。『学習指導要領解説理科編』（平成20年9月）第3章「指導計画の作成と内容の取扱い」2(3)「日常生活や社会との関連」には次のように示されています。

### 中学校学習指導要領解説 理科編 《抜粋》

理科では様々な原理や法則を学習するが、これらは日常や社会と深くかかわりをもっており、科学技術を支える基盤となっている。 . . . . (中略) . . .

生徒の将来とのかかわりの中で理科を学ぶ意義を実感させ、様々な課題に自立的に対応していくためには、理科で学んだことが様々な職業やその後の学習と関連していることや、理科の学習で養う科学的な見方や考え方が職業にも生かされることに触れることが大切である。例えば、授業の中で自然の事物・現象とのかかわりのある様々な職業に言及したり、科学技術に関係する職業に従事する人の話を聞かせたりすることなどが考えられる。

そこで、日常生活や将来の実社会での生活とのかかわりの中で、理科を学ぶ意義や有用性を実感できるように、職業や今後の学習との関連に触れ、様々な課題に自立的に対応する力を育成していくことが大切です。また、生命を尊重する心情をはぐくむとともに、自然環境を大切にし、その保全に寄与していこうとする態度を育成していくことが求められています。



## 2 中学校3年間を通した理科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

理科で学ぶ内容は日常生活や将来の社会生活と深く関連しており、理科の学習で養う科学的な見方や考え方は将来の職業生活にも生かされるものです。理科の指導を進めるに当たっては新しい学習指導要領を踏まえつつ、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」の育成を視点として指導の改善・充実を図り、中学校3年間を通して系統的・計画的な学習を進めることが大切です。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する理科の指導内容の例

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
理科学全般	○他者と協力・協働して、グループで観察・実験を行う。	○自己の役割を理解し、主体的に観察・実験に取り組む。	○自然の事物・現象に疑問を見出し、課題を設定し、計画を立てて課題を解決する。	○理科で学んだことや科学的な考え方が様々な職業や社会生活、その後の学習と関連していることを理解し、自らの生き方に生かす。
第1分野	○実験レポートの作成や発表により、互いの考えを理解し合う。 (例)身の回りの物質	○物質やエネルギーに関する事物・現象について、主体的に進んで学ぼうとする。	○自然の事物・現象に関する探究的活動を行い、分析・解釈して科学的に解決する。 (例)運動とエネルギー	○科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて認識を深め、科学的に考えていこうとする。 (例)電流とその利用 化学変化とイオン 科学技術と人間
第2分野	○観察記録のまとめの作成や発表により、互いの考えを理解し合う。 (例)大地の成り立ちと変化	○生物とそれを取り巻く自然の事物・現象について、主体的に進んで学ぼうとする。	○自然の事物・現象に関する様々な情報を収集・理解して課題解決に活用する。 (例)気象とその変化	○生命を尊重する心情をはぐくむとともに、自然環境を大切にし、その保全に寄与した生き方をしていこうとする。 (例)動物の生活と生物の変遷 生命の連続性 自然と人間

ここで学習指導要領に定められた中学校理科の目標「自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。」に改めて注目してみましょう。

冒頭に掲げられた「自然の事物・現象に進んでかかわり」は、日常生活や社会における科学の有用性を実感させる意味からも極めて重要であり、「探究する能力や態度」を身に付けることは、激しい変化が予想される社会の中で生涯にわたって主体的、創造的に生きていく上で不可欠であるだけでなく、「生きる力」の育成につながるものです。また、「観察、実験など」に際しては、計画を立て、他者と協力して取り組み、得られた情報を整理し課題解決に活用できるようにすることはキャリア教育の視点からも重要なことです。「自然の事物・現象についての理解を深め」させるためには、日常生活や社会とのかかわりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒自らの力で知識を獲得し、理解を深めていくようにすることが大切です。「科学的な見方や考え方を養う」こととは、科学的な知識や概念を用いて合理的に判断するとともに、多面的、総合的な見方を身に付け、日常生活や社会で活用できるようにすることです。このように理科の学習はキャリア教育とも密接にかかわっています。

《第2学年・第一分野》 日常生活や将来とのかかわりの中で理科を学ぶ

電流とその利用

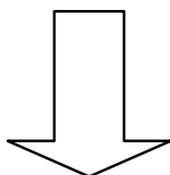
ねらい

電流回路についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係及び電流の働きについて理解させるとともに、日常生活や社会と関連付けて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養う。

本実践とキャリア教育

科学技術の急速な進歩・発展に伴い、生徒は電流の働きを利用した電気製品や電子機器に囲まれて生活しています。しかし、電気製品や電子機器が複雑になってしまったことで、日常生活の中で利用されている原理を学ぶことが難しくなっている面もあります。

そこで、実際に「電流とその利用」に関係する職業に従事している人の話を聞いたりする学習を行うことで、理科と産業や仕事・職業とのかかわりについて、理解させることができるようにします。さらに、理科の学習で養う科学的な見方や考え方が職業にも生かされることに触れさせ、将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解させるようにします。



全体構想

主な学習活動		時数
<b>静電気と電流</b> ○回路と電流・電圧 ○電流・電圧と抵抗 ○静電気と電流 ○学習のまとめ	電気工事業者と連携した授業	14
<b>電流のはたらき</b> ○電気とそのエネルギー ○電流がつくる磁界 ○磁界中の電流が受ける力 ○電磁誘導と発電 ○直流と交流 ○学習のまとめ	電力会社と連携した授業	11

<総合的な学習の時間>  
「自然環境とエネルギー」

<道徳>4-(5)  
勤労の尊さと意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

<特別活動・学級活動>  
学ぶことと働くことの意義の理解

●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

本単元を通したキャリア教育をさらに充実させるために、「科学技術と人間」での学習につなげる指導を行いましょう。また、技術・家庭科「エネルギー変換に関する技術」の学習との関連をもたせて取り扱うと良いでしょう。既習事項を活用したり内容を発展させたりするだけでなく、各教科が連携して、日常生活や職業とのかかわりの中で学ぶ意義を実感できるようにしましょう。

## 意義を実感させる

## 《本時のねらい》

コイルの内部の磁界が変化する時に電流が流れることを理解する。また、電磁誘導の現象を日常生活と関連付けて科学的に考察しようとする意欲と態度をもつとともに、発電機が電磁誘導を利用したものであることを理解する。

## 《展 開》(23/25時間)

過 程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	1 前時の実験(電磁誘導)の結果を確認し 合い、電磁誘導の条件を考える。 ・コイル付近の磁界が変化するとコイ ルの導線に電圧が生じた。 2 電磁誘導・誘導電流の説明を聞く。 3 本時の課題を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             発電の仕組みについて理解しよう。           </div>	○前時の実験の内容と結果から、コイル中で磁界を 変化させることにより電流が得られることを確認 させる。  ☆電磁誘導を理解できたか。
展 開	4 日常使われている電気がどのようにつ くられているのかを理解する。 ・発電所で電気がどのようにつくられ ているのか理解する。 5 発電所(電力会社)の職員に質問する。 ・わからなかったことや日ごろ疑問に 思っていることなどを質問し、情報 を収集する。	○発電所(電力会社)の職員を紹介し、実際の発電の 仕組みなどについて説明していただく。  ◎発電機が電磁誘導を利用したものであり、今の学 習が日常生活と密接に関連していることを理解さ せる。  ○説明や実験に関する内容だけでなく、電力会社の 仕事などについても積極的に質問させる。  ◎この職業に従事している人の話を聞くことによ り、職業の社会的役割や意義・自己の生き方を考 えさせる。
ま と め	6 本時の学習を振り返り、わかったこと と感想をまとめる。 ・電磁誘導と発電の仕組み、日常生活 との関連についてまとめる。	☆発電機が電磁誘導を利用したものであることが理 解できたか。  ◎☆日常生活や将来とのかかわりの中で電流につい て学ぶ意義を実感できたか。

## ●実践のポイント●

## ・日常生活や将来とのかかわりの中で電流について学ぶ意義を実感させましょう

実際に「電流とその利用」に関係する職業に従事している人の話を聞いたりする学習を行うこと  
 で、日常生活や将来とのかかわりの中で電流について学ぶ意義を実感するとともに、職業や今後の  
 学習と関連付けて、さらに学んでいこうとする意欲を高められるよう工夫しましょう。

# 音楽

## 1 音楽科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

中学校学習指導要領では、音楽科の各学年の目標(1)を、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。(第1学年)」、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。(第2学年及び第3学年)」と定めています。音楽の様々な活動を通して、活動そのものを楽しんだり、音楽に感動したりするような体験を積み重ねることは、進んで音楽活動をしようとする意欲に結び付くとともに、音楽を生活に取り入れて、明るく豊かな社会生活を送ることのできる生徒の育成につながります。

また、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(7)イ」では、「適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせたりするなど、生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること。」と示しており、指導を通して、音楽がどう社会にかかわっているかを生徒に実感させること、学ぶことと実生活との関連を図ることが求められています。

音楽には「個と集団とのかかわり」から豊かな感性や創造性が育つという教育力があります。音・音楽を通して「心の内なるもの」を表現し合い、交流し合い、認め合う音楽活動は、まさにコミュニケーションそのものであり、「個と集団とのかかわり」が基軸となって展開されるという特性をもっています。豊かで創造的なかかわりが、共に学び合い、分かち合う力を育て、このような経験を通して身に付いたものが生きる力となって、生涯にわたって音楽とかかわるためのエネルギーとなっていくと考えられます。このことから、音楽という教科の中でもキャリア教育を進めていくことが可能であると言えます。

以下は、『中学校学習指導要領解説音楽編』（平成20年9月）に示された「音楽科改訂の趣旨」及び「音楽科の目標」に関する記述の抜粋です。音楽科を通じたキャリア教育の意義がここからも読み取ることができるでしょう。

### 中学校学習指導要領解説 音楽編 《抜粋》

#### 音楽科改訂の趣旨

(ii)改善の具体的事項

(オ) 合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする指導を重視する。学習全体を通じて、音楽文化の多様性を理解する力の育成を図るとともに、音環境への関心を高めたり、音や音楽が生活に果たす役割を考えたりするなど、音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるように指導するようにする。

#### 音楽科の目標

##### 1 教科の目標

様々な音楽がもつ固有の価値を尊重し、その多様性を理解できるようにするとともに、音や音楽によって、人は自己の心情をどのように表現してきたか、人と人とがどのように感情を伝え合い、共有し合ってきたかなどについて、生徒が実感できるように指導することが大切である。

## 2 中学校3年間を通じた音楽科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

音楽科の指導内容がそのままキャリア教育と結び付くというのではなく、生徒が音楽を表現したり鑑賞したりする活動や体験が、基礎的・汎用的能力としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」等の育成につながると考えます。よって、指導計画の作成、授業の展開において、キャリア教育との関連を確認し、生徒の発達の段階に応じた指導を行うことがキャリア教育の推進につながります。3年間を見通した系統的な指導に取り組むことが重要です。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する音楽科の指導内容の例

学年／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌ったり、演奏したりする。</li> <li>・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わう。</li> <li>・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現したい思いや意図をもち、それを歌唱や楽器で表現する。</li> <li>・楽器の音の特性や奏法の特徴をとらえ、自分なりのイメージをもって表現する。</li> <li>・表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞する。</li> </ul>
第2学年及び第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌ったり、演奏したりする。</li> <li>・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わう。</li> <li>・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌ったり、演奏したりする。</li> <li>・表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞する。</li> </ul>

合唱や合奏など全員で一つの音楽をつくっていく活動の中に、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりする場面を意図的に設けたり、また音楽の授業のガイダンスにおいて、音や音楽が生活に果たす効果的な役割を考えたりするなど、音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるように計画的な指導に取り組むことが大切です。

更には、鑑賞の授業において、特に社会科、美術科との連携を図り、それぞれの音楽を生み出しはぐくんできた文化・歴史、他の芸術とのかかわりなどの、学習を深めることも大切です。

### 3 実践例

## 《第3学年》 ともに認め合い、学び合いながら自分たちの合唱をつくる

### 想いを伝える合唱づくり

#### ねらい

- 合唱による音楽表現の楽しさや喜びを感じ取る。
- 自主性・協調性を養い、主体的・創造的に表現する。

#### 本実践とキャリア教育

多くの学校で学校行事の一つとして校内音楽祭(合唱コンクール)が行われています。音楽科の授業で学習する内容が各学級の合唱の質の向上に直接・間接に結び付くとともに、学級作りにも大いに役立っています。全員で一つの音楽(合唱)をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合ったり、協同する喜びを感じたりするなど、つくり上げる過程で生まれる様々な考え方の違いなどを乗り越えていくことで、生徒たちは協調性やチームワークの大切さ、音楽のもつ力を学ぶことができます。豊かな人間関係を育てる、とても意味のある活動です。



### 全体構想

主な学習活動	時数	
<b>選曲</b> ・クラスの特長を生かし、能力を伸ばす曲を選ぼう	1	<特別活動・学級活動> <放課後等の自主的活動> ・実行委員、パートリーダー、指揮者、伴奏者等の選出とその役割の把握 ・取組目標の設定(学級・個人) ・選曲(学級活動と音楽科との直接的な連携) ・練習スケジュール作成 ・練習用CD作り ・練習(放課後の自主的な練習) ・スケジュールの見直し
<b>曲づくり</b> ・歌詞や旋律を正しく歌えるようにしよう ・違うパートと合わせて歌えるようにしよう ・歌詞の内容、旋律やテクスチャなどを生かし歌えるように工夫しよう	5	
<b>仕上げ</b> <small>おも</small> ・想いを生かした歌に仕上げよう		
<b>振り返り</b>	1	<特別活動・学級活動> 振り返り

#### ●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

歌詞の内容の理解は、国語科「読むこと」とも関連をもたせることで、より深い歌詞内容の理解ができ、歌詞の内容と音楽の構造とを結び付けた、より優れた合唱の表現に生かすことができます。

## 《本時のねらい》

- 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌えるようになる。
- 声部の役割と全体のかかわりを理解して、表現を工夫しながら歌う。

## 《展開》(4 / 7時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 発声の練習をする。 2 前時までの学習内容の確認(パートごとに)	○十分に声が出ているか意識させる。 ○前時までの内容が身に付いているか確認する。 ◎パートリーダーに各パートの表現をチェックさせながら、これまでの成果や課題など、互いに確認させる。
展開	3 音楽づくり研究カード用いて表現を工夫する。 ・表現を工夫したい場所・方法などをメモするカードをパートリーダーに渡す。 ・パートごとに歌いながら、よりよい表現について意見交換する。 ・パートごとに工夫したところを発表し、各パートの工夫を聴き合い、課題を明らかにし、どのような合唱表現にするかを話し合い、決定する。	◎工夫したいところについて、理由を含めながら発言させる。 ◎互いの意見を尊重し、より良い方法を考えさせる。その際、諸記号の表している意味を考える。 ○各パートの良かった部分、不足している部分などを伝えることができるようにするとともに、それぞれの役割と全体のかかわりを意識させ、練習させる。
まとめ	4 各パートの役割と全体のかかわりを大切にしながら歌い合わせる。(録音) ・録音したものを聴き、更に完成度を高める。 ・頑張りカードを記入する。	○気持ちだけでなく、しっかり音楽表現ができているか客観的に聴かせる。 ☆自己評価：短い感想や反省を書く。 ◎個人やクラスの変容や悩みを発見し、アドバイスをし、次の目標をもたせる。

## ●実践のポイント●

生徒同士でお互いが思うことを話し合いながら曲を完成させる活動に慣れるまでに時間がかかりますが、生徒が活動に慣れると自らが曲を作り上げているという意識が育ってきます。そうになると、歌うことにもっと意欲的になってきます。パートリーダーが活動の中で重要な役割を果たしますが、生徒一人一人が自ら感じ取ったことや、それに基づく表現の工夫などを他者と伝え合うことができるように指導を工夫し、全ての生徒がそれぞれの役割を生かして、主体的に参画しながら、よりよい音楽表現を追究できるようにすることが大切です。

なお、他学年の学級との合同練習や、上級生による模範合唱などを取り入れると、上級生としての自覚も高まるとともに、積極的に下級生を指導できるようになり、リーダーシップや人間関係を形成する力が身に付くでしょう。

# 美術

## 1 美術科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

平成20年9月に公表された『中学校学習指導要領解説美術編』では、「美術科の改善の基本方針」として、「生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心をもって，生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむこと」が示されています。このことから，美術科の指導全体について，題材や，扱う材料，用具などを生徒の生活との関連や，身近なものを活用する視点からも見直すことが大切になってきます。また，B鑑賞においてこれまで「自然や生活と美術との深いかかわり」とされてきた事項が，対象を自然だけではなく環境の中の造形にも求め，「生活を美しく豊かにする美術の働き」となりました。生活の中の美術の働きに関心をもたせ，実感させるような学習を目指しています。このようなことを踏まえて，学ぶことの意義を理解させる授業を展開することがキャリア教育を充実させることとなります。

さらに，今回の改訂では，A表現は(1)の「感じ取ったこと」や「考えたこと」などを基にした「発想や構想」と(2)の「目的や機能を考えた発想や構想」，(3)の創造的に表現する「技能」に整理されています。(1)は，特に基礎的・汎用的能力の「自己理解・自己管理能力」と関係深いと考えられます。今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解が促進されるよう指導することが大切です。同様に(2)の「目的や機能を考えた発想や構想」は，課題対応能力と関連があり，(3)はキャリア・プランニング能力，B鑑賞の下線部は「学ぶことと実生活との関連」として深くかかわる部分と言えます。

### 中学校学習指導要領 美術 《抜粋》

#### 第2・3学年

##### A表現

(1) … 発想や構想に関する次の事項を指導する。

ア 対象を深く見詰め感じ取ったこと，考えたこと，夢，想像や感情などの心の世界などを基に，主題を生み出すこと。

(3) … 技能に関する次の事項を指導する。

イ 材料や用具，表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら，見通しをもって表現すること。

##### B鑑賞(1) …

イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや，自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り，安らぎや自然との共生などの視点から，生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。

第2学年及び第3学年では，自然や身近な事物に加え，一人一人の考えや思いを大切に，主題を生み出すことに関する指導事項があります。対象や自己の内面を深く見詰めて，価値や情緒などを感じ取りながら，自己を理解し，自己を見つめて生じた感情などを基にして，自分なりに主題を考えさせることとなります。例えば，このような自己を振り返る活動を他教科と連携しながら進めるなどの工夫も考えられます。

また，中学校におけるキャリア教育の目標の一つに，肯定的自己理解と自己有用感の獲得がありますが，そもそも美術科は，生徒一人一人の発想を大切に表現したり，自分の価値意識をもって鑑賞したりすることを大切に展開している教科です。このことから，美術科の中で，無理なくキャリア教育を進めていくことは可能であると言えます。

## 2 中学校3年間を通した美術科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

中学校美術の表現の学習は、表したいことを基に、思考・判断し、表現する創造的な課題解決学習そのものです。また、感じ取ったことや考えたことなどを自分の感覚で自由に表現する活動は、自己を確認したり、新たな自分を発見したりすることでもあります。特に、自己の内面を見つめることは、価値観を構築していく思春期の中学生にとって重要であり、肯定的な自己理解を促す機会になります。また、鑑賞の学習では、自然や身の回りの造形、美術作品などから良さや美しさを感じ取り、心を豊かにしていきます。これは、知識を詰め込むものではなく、思いを巡らせながら対象との関係で自分の中に新しい価値を作り出す創造活動です。その活動では、作品などに対する思いや考えを説明し合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりすることで、自分一人では気付かなかった価値などに気付くことができるようにすることが重要です。

以下の表は、美術科の内容と、キャリア発達にかかわる「基礎的・汎用的能力」と関連する部分をまとめたものです。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する美術科の指導内容の例

学年／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活における美術の働きなどを感じ取る。</li> <li>作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表したいことを具現化できるように表現の効果などを考えながら、計画を立てて表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表したい主題について、形や色彩、材料などを構成し、表現の効果を踏まえてどのように表現するかなど構想を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品が表している内容や、形、色彩、材料、表現方法などから、自分として根拠をもって読み取る。</li> </ul>
第2学年及び第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>感じ取った作品の良さや美しさなどの価値について、根拠を明らかにして自分の考えを述べたり、生徒同士で批評したりして、自分の気付かなかった作品の良さを発見する。</li> <li>社会性や客観性を一層意識し、目的や条件、機能などを広い視野で総合的にとらえる。</li> <li>内面や全体の感じ、価値や情緒などを感じ取り、外形には見えない本質的な良さや美しさなどをとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具、表現方法の特性を効果的に活用するために、制作の順序や見通しをもって表現する。</li> <li>制作の見通しをもちながら自分の表現意図に合う独創的な表現方法を工夫して表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人がイメージを広げ、表したい主題を形や色彩、材料などを客観的な視点をもって効果的に活用できるよう構想を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者を取り巻く芸術の潮流や人間関係など一人の人間として人間性や生き方に触れるなどする。</li> <li>美術を生活や社会、歴史などの関連で見つめ、自分の生き方とのかかわりでとらえ、鑑賞を深める。</li> <li>主題に基づきながら作品の背景を見つめたり、自分の生き方とのかかわりでとらえたりする。</li> </ul>

《第2学年・第3学年》 心の世界を絵や彫刻で表現する

15歳のわ・た・し — 自己の内面を見つめて表現しよう

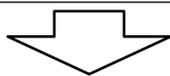
ねらい

心の世界の表現に関心を持ち、自己の内面を深く見つめて考えたこと、夢、想像や感情などを、造形的な効果を生かし創意工夫して表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わう。

本実践とキャリア教育

自分がかげがえのない存在であり、この世に生を受けたときから多くの人間とかわかり、見守られていることについて、感性や想像力を働かせながら感じ取ることは、多感な15才の生徒にとって肯定的自己理解や自己有用感の獲得に有効です。さらに、自分自身を深く見つめ、自分なりに主題を生み出すことは将来の夢を広げるとともに、将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かわせることにつながります。

また、お互いの作品を鑑賞する場面において、感性や想像力を働かせて、造形的な良さや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、味わい、それらを発表し合うことで、自分の言動が、級友をはじめとした他者に及ぼす影響について理解したり、自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めたりすることにつながります。



全体構想

主な学習活動	時数	
<b>1. 課題の把握と発想・構想</b> ●自分の表現意図に合う材料や用具を用いて心の世界を表現することを理解し、題材への関心を高める。 ・参考作品などを鑑賞し、作者の主題、意図と表現の工夫などについて意見を述べ合う。 ●自己の内面を見つめ直し、表現する主題を生み出す。 ・自己の興味、関心、性格、思い出や夢などを思い浮かべ、表現したい主題を考える。 ●主題を基に構想を練る。 ・主題を基にアイデアスケッチなどにより構想をまとめる。	3	<道徳> 強い意志 1-(2) 理想の実現 1-(4) 自己理解・個性の尊重 1-(5) 感謝 2-(6)
<b>2. 制作</b> ●構想を基に自分の表現意図に合う表現方法を工夫する。 ・絵の具や粘土、ボール紙など、構想を実現するための材料や用具を用いて制作をする。 ●構想を練り上げる。 ・制作を進めていく中で、より主題にあったものにするため、構想に改善を加えていく。	6	<総合的な学習の時間> <特別活動・学校行事> 職場体験活動
<b>3. 鑑賞</b> ●他者の作品から、作者の主題、意図と創造的な表現の工夫などを感じ取る。 ・お互いの完成作品を鑑賞し、自他の作品について批評し合う。	1	<特別活動・学校行事> 運動会 修学旅行など

●更なる充実のために — 他教科における学習と関連付けた指導 —

本題材を通してキャリア教育を更に充実させるためには、技術・家庭科の家庭分野や、社会科の公民的分野「私たちと政治」において民主主義や基本的人権の学習を通して一人一人を尊重しながら、様々な方法で社会に参画し、より良い社会づくりを目指すことと関連を図ることが考えられます。

《本時のねらい》

- ・自己の内面を見つめ直し、表現する主題を生み出す。

《展 開》(1 / 10時間)

過 程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	<p><b>課題の把握と発想・構想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の内面を見つめ直し、表現する主題を生み出す。</li> <li>・自己の興味、関心、性格、思い出や夢などを思い浮かべ、表現したい主題を考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>近い将来、皆さんは、大人として社会に参画し、社会を作っていく立場になります。</p> <p>その方法は、家族や地域社会の一員としてはもちろん、職業に就き、政治に参加したり、だれかの役に立つことをしたり、数多くあります。</p> <p>このことは、社会科で学習したし、学級活動でも話し合いをしましたね。</p> <p>そこで、もう一度自分自身を振り返ってみましょう。</p> <p>これまでのいろいろな経験はもちろん、将来の期待や展望も全部含めて「今の自分」です。</p> <p>「15才の私」を、表現する材料を工夫しながら色と形で表してみましょう。</p> </div>	<p>○ワークシートや心のノートなどを活用して、これまでの経験や、過去の自分、なりたい自分についてイメージを広げさせる。</p> <p>◎将来の夢を広げながら、自分なりに主題を生み出せるよう配慮する。</p>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を基にアイデアスケッチなどにより構想をまとめる。</li> </ul>	<p>○漠然とした主題をたくさんのアイデアスケッチをすることによって明確にさせる。</p> <p>○完成した作品のイメージを大切にしながら表現に用いる材料などを構想させる。</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返る。</li> <li>・級友のアイデアスケッチを鑑賞する。</li> </ul>	<p>◎お互いのアイデアスケッチを鑑賞させることによって、他者の個性や考え方を尊重させるようにする。</p> <p>○肯定的自己理解や自己有用感を味わわせる。</p> <p>☆表現したい主題を生み出すことができたか。</p>

●実践のポイント●

・各教科等の関連を考えて展開しましょう。

「自分自身を振り返る活動」について、例えば技術・家庭科の家庭分野や、道徳(心のノート)、特別活動などで実施していた場合には、それらのワークシートやノート等を積極的に活用しましょう。

・これまでの成長を実感できるようにしましょう。

これまでの成長が実感できるようにするためには、視覚化するなどの方法があります。これまでの楽しかったことや、困難に当たった時などの心の動きをグラフや図、スケッチに表すなどして、今の自分はそれらを乗り越えてきたことを実感させ、肯定的自己理解や自己有用感を味わわせることが大切です。

# 保健体育

## 1 保健体育科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1)保健体育科の目標とキャリア教育

平成20年3月に改訂された中学校学習指導要領の保健体育における「目標」の中に、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことが位置付けられ、保健体育科での学習と将来の生活との関連性が明示されました。また、各分野における目標に関する規定を見ても、例えば「公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画するなどの意欲を育てる(体育分野第3学年)」、「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる(保健分野)」など、生徒一人一人の今後の生活の基盤となる資質や能力をはぐくむことが保健体育科の柱の一つとなっていることが分かります。

ここでは、保健体育科の目標のうち、キャリア教育と最も関連の深い「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」及び「健康の保持増進のための実践力の育成」によって培われる「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」ことに焦点を絞って、『中学校学習指導要領解説保健体育編』（平成20年9月）における解説を引用してみましょう。

#### 中学校学習指導要領解説 保健体育編 《抜粋》

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」とは、・・・公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲や健康・安全への態度、運動を合理的に実践するための運動の技能や知識、それらを運動実践に活用するなどの思考力、判断力などを指している。これらの資質や能力を育てるためには、体を動かすことが、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむことにも資することを踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わえるよう基礎的な運動の技能や知識を確実に身に付けるとともに、それらを活用して、自らの運動の課題を解決するなどの学習をバランスよく行うことが重要である。このことにより、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、実生活、実社会の中などで生かすことができるようにすることを目指したものである。

「健康の保持増進のための実践力の育成」とは、健康・安全について科学的に理解することを通して・・・生徒が現在及び将来の生活において健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、適切に実践していくための思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを示したものである。

「明るく豊かな生活を営む態度を育てる」とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力、健康で安全な生活を営むための思考力・判断力などの資質や能力としての実践力及び健やかな心身を育てることによって、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにするという教科の究極の目標を示したものである。

上に引用した解説が示すように、保健体育科における学びを「実生活、実社会の中などで生かすことができるよう指導することが肝要ですし、「生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことは保健体育科の「究極の目標」でもあるのです。

### (2)保健体育科の実践とキャリア教育—武道を事例として—

中学校学習指導要領の改訂に伴い、体育分野では平成24年度から、第1学年及び第2学年では、すべての領域が必修とされました。この点にかんがみ、新たにすべての生徒が学習することとなる武道を事例としながらキャリア教育との関係についてより具体的に整理してみましょう。

武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、対戦する相手と技の攻防を通して勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。また、伝統的な所作や礼法を通して相手を尊重して練習や試合ができるようにすることを重視する特徴があります。武道の学習の過程で、防具や用具の準備や後片付け、審判などの分担した役割を果たすことも、社会生活を過ごす上での必要な責任感を育てることにつながります。また、相手を尊重し合うための独自の作法や所作を守ること、

仲間の学習の援助を通して仲間との連帯感を高めることなど、武道の学習を通して身に付ける力は生涯にわたって生かされるものです。キャリア教育の視点から武道の指導をとらえることにより、これらの特質が一層生かされるでしょう。

## 2 中学校3年間を通じた保健体育科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

「生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにする」ことを究極の目標とする保健体育科においては、キャリア教育と密接に関連する多くの指導内容があります。また、保健体育科を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の基盤としても極めて重要であると言えるでしょう。以下の表は、社会的・職業的な自立のための基盤としての「基礎的・汎用的能力」の育成に関連の深い保健体育科の指導内容を例示したもので、平成24年度から必修となった武道に焦点を当てたものも、別記しています。前述の通り武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化で、相手の動きに応じて攻めたり防いだりして技を競い合うところにその楽しさがあります。また、相手を尊重して礼儀作法を守り、禁じ技を用いない、危険な動作はしないなど、自他の安全に注意して行うことも大切です。日本古来の伝統の一端を継承しながら、技能を生かして試合を楽しむことが生涯スポーツにつながり、キャリア教育の意義と深く結びつく取組だと考えます。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例—武道に焦点を当てて

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
体育分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>審判の判定や勝敗の結果を受け止め、ルールやマナーを守ることや自分のことだけでなく共に学ぶ仲間に対して必要な支援をすることに積極的な意志をもつ。</li> <li>話し合いなどでグループの学習課題等についての意思決定をする際に、相手の感情に配慮して発言したり、仲間の意見に同意したりしてグループの意思決定に参画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動を通して、人の体や心の状態には個人差があることを把握する。</li> <li>自己の体調の変化に気を配ったり、用具や場所の安全に留意したりする。</li> <li>自己の体調の変化に応じて段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認したりする。</li> <li>健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題に応じて、学習する技の合理的な動き方について改善すべきポイントを見付ける。</li> <li>自己の課題に応じて、適切な練習方法を選ぶ。</li> <li>提供された作戦や戦術から、自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦や戦術を選ぶ。</li> <li>仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な運動において実生活で継続しやすい運動例を選ぶ。</li> <li>運動を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける。</li> </ul>
保健分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>異性の尊重、性情報への対処など思春期における適切な態度や行動選択について考える。</li> <li>飲料水・空気、生活に伴う廃棄物の衛生的管理と人々の健康との関連を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体機能の発達や発育。</li> <li>発達の個人差などについて理解する。</li> <li>精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康などについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、感染症の予防などについて課題を発見し、解決方法を考える。</li> <li>交通事故や自然災害による傷害の防止等の方策について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健・医療機関の有効活用、個人の健康を守る社会の取組などについて理解を深める。</li> </ul>
武道	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で自分を律する克己の心を表すものとして礼儀を守るという考え方があることを理解し、取り組めるようにする。(1.2年)</li> <li>投げ込みや打ち込みの相手を引き受けたり、運動観察などを通して仲間の課題を指摘するなど教え合ったりしながら取り組もうとする。(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調の変化などに気を配ること、危険な動作や禁じ技を用いないこと、用具の安全や練習及び試合場所での自己や仲間の安全に留意することや、技の難易度や自己の技能・体力の程度に応じて技に挑戦する。(1.2年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の技能、体力の程度に応じた得意技を見付ける。</li> <li>提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選ぶ。</li> <li>仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘する。(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>武道を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付ける。(3年)</li> </ul>

伝統的な考え方や礼儀作法などを理解し、基本技を用いて相手の

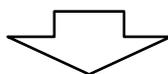
柔道

ねらい

- 基本動作や基本となる技をできるようにする。
- 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや健康や安全に気を配ることに積極的に取り組もうとする。
- 伝統的な考え方や礼儀作法を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

本実践とキャリア教育

武道では、相手と直接的に攻防するという特徴から、相手を尊重し合うための独自の作法、所作が生まれました。単に形の指導に終わるのではなく、相手を尊重する気持ちを込めて行うことが大切であることを理解させながら単元を構成していきます。



全体構想

主な学習活動	時数	
オリエンテーション	1	
<b>共通学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成り立ちや礼法、所作の意味を知ろう</li> <li>・柔道を安全に楽しむための受け身を身に付けよう</li> <li>・攻防の基礎となる基本動作を身に付けよう</li> <li>・基本となる投げ技、固め技のポイントを理解し、互いに教え合おう</li> </ul>	7	<道徳> 1-(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。 2-(1) 勤労の尊さと意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。 4-(1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。
<b>課題別学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に応じた練習方法を選ぼう</li> <li>・仲間の課題を指摘してみよう</li> <li>・かかり練習、約束練習で技を磨こう</li> <li>・ごく簡単な試合で攻防を体験しよう</li> <li>・学習の成果をまとめておこう</li> </ul>	7	<総合的な学習の時間> 自ら考え、主体的に判断するとともに、自己の生き方を考えることができるようにする。

●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

本単元の教え合おうとする活動を題材として、国語科の「話すこと・聞くこと」での学習に関連をもたせて取り扱おうと良いでしょう。生徒の個性や能力を十分に引き出し、自己表現力を高めることにより貢献できると考えます。

## 動きに応じた攻防を楽しもう

## 《本時のねらい》

- チームの協力の仕方を見つけよう(ごく簡単な試合で攻防を体験しよう)

## 《展 開》(13/15時間)

過 程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	<b>オリエンテーション</b> 本時の学習の進め方を確認する。	○これまでの学習を確認し、学習ノートの質問に回答する。 ○本時の流れと試合の仕方を説明する。
展 開	1 基本動作 ・投げ技の基本動作・姿勢 ・組み方・進退動作 ・くずし・体さばき	◎練習の際に、仲間の練習相手を引き受けたり、技のかけ方などの学習課題の解決に向けて仲間に助言したりしようとするのが仲間との連帯感を高めて気持ちよく活動することにつながることを確認する。
	<b>学習内容</b> ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけること。(思考・判断)	
展 開	2 グループ別約束練習 ・基本となる投げ技、固め技	◎取、受、観察者のトリオ学習を通して、仲間の課題を指摘し合う。(基本技チェックカード使用する。)
	3 ごく簡単な試合に向けた 作戦会議	○固め技で取、受の姿勢から、「抑え込みの条件」を取が20秒間維持できるかどうかを順番に行う。取の時、抑え込みが維持できたら3点、受の時に抜け出せたら5点として、5人の合計点で競うことを伝える。 対戦順番及び戦い方のチームの作戦を立てる。
展 開	4 ごく簡単な試合	◎試合者、次の試合の準備、仲間の応援の役割を指示し、チームで協力して取り組むことを伝える。また、勝敗に関わらず、相手やチームの健闘を讃えることを確認する。
	ま と め	<b>本時の反省</b> 本時の学習を振り返らせ、学習カードに自己評価、自己の役割分担の達成状況、質問等を記入する。

## ●実践のポイント●

- ・ 体育の学習に内包された態度の学習内容が引き出せるよう授業の流れを作りましょう。
- ・ 役割を分担したり、仲間と協力したりすることの意義を理解させるとともに、仲間の励ましや声援を受けてどのような感情となったか振り返るように発問をしましょう。
- ・ 仲間や相手をなじるような場面があれば、自分が受けた場合どのような気持ちになるか問いかけましょう。

# 技術・家庭

## 1 技術・家庭科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

### (1) 両分野を通じて、教科目標の実現を目指すこと

教育基本法にある「職業と生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度」を、中学校段階からしっかり養うために、技術・家庭科の役割は非常に大きいものです。次に示すように、技術・家庭科の目標は、キャリア教育の目標と大きく重なっています。したがって、技術・家庭科の教科目標の実現を目指すことが、キャリア発達を促すことに深くつながります。

以下は、『中学校学習指導要領解説技術・家庭編』（平成20年9月）に示された教科及び両分野の目標についての解説から、キャリア教育と特にかかわりの深い箇所を引用したものです。

#### 中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 《抜粋》

##### 教科の目標

- 従来の実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、充実感や達成感を実感させるとともに、学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解にも触れるなど、生徒の実態に即した内容や活動を準備し、自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習を一層充実させることが重要である。

##### 技術分野の目標

- 以上のような技術分野の学習は、工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度などを併せて醸成するものであり、それは、これからの社会で主体的に「生きる力」の育成を目指して展開されるものである。

##### 家庭分野の目標

- 特に、中学生の時期は、生徒が生活の自立を目指す中で、人々に支えられて生活していることに気付くことや、自分も家庭生活を支える一員としての自覚をもち、生活をよりよくしようとする態度を育成することが大切である。

両分野を通じて、次のような働きかけを長期的・計画的に取り入れることが、キャリア発達のために重要であると言えます。

- 問題解決的な学習を通して、生活上の課題を計画的に解決するために必要な課題対応能力の基礎(問題解決能力)や、将来の生活へ主体的に対応できる能力や態度をはぐくむこと。
- 実践的・体験的な学習活動を通して充実感や達成感を実感させること。
- 集団活動などを通して、メンバーの一員としての自覚や役割をもたせ、協調性や責任感をはぐくむこと。
- 卒業後の職業教育との関連、将来の職業の選択や生き方のかかわりなどを理解させること。

こうした働きかけは、技術・家庭科ならではのものです。3年間を通じて、生徒のキャリア発達をじっくりと促すように、働きかけを継続することが大切で、それは技術・家庭科の教科目標でもある「工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことと密接につながります。

### (2) 各分野における留意点

技術分野では、技術と社会や環境とのかかわりを理解させながら、勤労観や職業観、倫理観、協調性、忍耐強さなどをはぐくみ、技術的な視点でものごとを吟味する能力や態度をはぐくむことが重要といえます。

家庭分野では、生徒自身の生活と、地域や社会生活とのかかわり、環境とのかかわりなどを理解させながら、家庭や社会の一員としての自覚や役割をもたせ、生活の自立を目指すことが、キャリア発達にとって必要な学習内容であると言えます。

## 2 中学校3年間を通じた技術・家庭科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

技術・家庭科で扱う指導内容は、「基礎的・汎用的能力」の育成と、次の表のように対応しています。キャリア発達の視点から言えば、両分野の学習を調和させて「生活を工夫し創造する能力」をはぐくむとともに、生活の自立を目指す態度や、職業観・勤労観などの態度を醸成することが重要であるといえます。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する技術・家庭の指導内容の例

分野／能力	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
両分野	○製作や実習等を通して協調性・責任感をもつ(自他の役割の理解と遂行)。	○仕事の楽しさや完成の喜びを味わう。 ○充実感や達成感を実感する。	○問題解決能力(生活を工夫し創造する能力)をもつ。 ○原因や課題を見付け、その課題を解決するために工夫する。	○学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解に触れる。
技術分野	○技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割や、環境との関係について考える。 ○情報モラルについて考える。	○緻密(ちみつ)さへのこだわりや忍耐強さなどを育てる。 ○技術を適切に評価し活用しようとする。	○目的や条件に応じて設計・計画できる。 ○情報手段を主体的に選択し活用する。 ○技術の適切な評価・活用について考える。	○技術にかかわる倫理観や新しい発想を生み出し活用しようとする態度をはぐくむ。 ○職業観や勤労観をはぐくむ。
家庭分野	○家族や社会の一員としての自覚や役割をもつ。 ○周囲の人々とのかかわりや人間関係の大切さを理解する。	○より良い家族・家庭や社会(の生活)をつくるために、現在自分ができることを見直し、さらに必要な力をつけて生活に役立てようとしている。	○生活を見直し、課題をもって活動を工夫し、計画を立てて実践する。	○家庭や地域で実践する意義に気付く。 ○家庭や社会の一員として、自己実現に向けて生活の自立をめざす。 ○環境に配慮した消費生活について工夫し実践する。

したがって、授業づくりのポイントは、次のようなものが考えられます。

- 技術分野の学習を通して、技術を評価し活用する能力と態度をはぐくみ、将来における技術の生かし方や技術とのかかわり方を考えさせる。
- 家庭分野の学習を通して、様々な場面で家庭や社会の一員であることを自覚させ、家族や地域、周囲の人々とのかかわり方を考えさせる。
- 各分野の基礎的・基本的な学習内容を、しっかり習得させる。
- 生活上の課題を見つけさせ、これを解決させるような設計・計画を考えさせ、見通しをもって実践に取り組ませることで、課題対応能力の基礎(問題解決能力)をはぐくむ。
- 学習内容を、実生活での事例や関連する職業等に結び付けさせる。
- 班活動の場面では、役割分担を明確にし、責任をもってやり遂げさせる。
- 実習では、準備、作業や活動、片付け、振り返りやまとめを、時間内にやり遂げさせる。

問題解決的な学習や実践的・体験的な学習の場面を通して、知識や技術の習得、生活を工夫し創造する能力の育成、生活や技術への関心・意欲・態度の醸成を、バランスよく取り入れた授業づくりが、キャリア発達を促すことにつながります。

### 3 実践例(1)

## 《技術分野》 技術の生かし方や、技術とのかかわり方を考えさせる

### 「情報の技術」を上手に使う

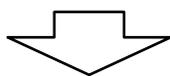
#### ねらい

情報社会で利用されているメディアの技術や計測・制御の技術について学習することで、デジタル化の方法や情報処理の手順の自動化等の情報に関する技術と、社会や環境とのかかわりを理解し、これらの技術を目的や条件に応じて積極的に活用していく能力と態度をはぐくみます。

#### 本実践とキャリア教育

この題材では、情報に関する技術を例に、技術が社会に与える様々な影響を評価させながら、自分なりの技術の生かし方や、技術と社会とのかかわり方を考えさせます。その際に、産業、社会、経済、福祉、環境、技術開発など、様々な広げた視点から技術を評価させることで、社会の一員として、将来の技術とのかかわり方を考えさせることができ、職業観や勤労観、倫理観等の醸成につながります。

また、プロ(専門家)の考え方や生徒自身の考え方を比較させることで、将来の職業の選択や生き方とのかかわりを理解させるよう工夫しています。



### 全体構想

主な学習活動	時数	
オリエンテーション	1	
情報通信ネットワークと情報モラル D(1)アイウ		
メディアの技術 ・メディアの特徴を知る ・作品構想を具体化する ・作品を制作する ・社会で利用されているプロの技術に触れる D(2)	7	<div data-bbox="1122 1258 1446 1425" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     &lt;道徳&gt; 4 - (5)                      勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。                 </div>
計測・制御の技術 ・計測・制御の仕組みを知る ・情報処理の手順を知る ・プログラムを考える ・プロの作ったものと比較する D(3)	7	<div data-bbox="1122 1441 1446 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     &lt;特別活動・学級活動&gt;                      (2)ウ 社会の一員としての自覚と責任                      (3)ア 学ぶことと働くことの意義の理解                      (3)エ 望ましい勤労観・職業観の形成                 </div>
情報に関する技術の評価と活用 ・社会や環境等とのかかわりを知る ・技術を評価し、活用法を考える D(1)エ	2	<div data-bbox="1122 1701 1446 1868" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     &lt;総合的な学習の時間&gt;                      自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成                 </div>

#### ●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

情報に関する技術が、生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について理解を深めるため、理科(科学技術と人間)や数学科(コンピュータを用いた資料の活用)、社会科(現代の日本と世界)等、テクノロジーの発展と関連付けることで、生徒一人一人の考えが一層深まります。

## 《本時のねらい》

情報に関する技術を適切に活用するために、これらの技術がもつ影響等の課題を明確にし、その適切な解決策を、社会的・環境的・経済的側面などから比較・検討して見いだす。

## 《展開》(16/17時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 情報に関する技術にはどんなものがあったか思い出す。  これらの技術にはどんなプラス・マイナスがあるだろう？	○説明は最小限にとどめ、解決に向けての多様な方法が挙げられるようにする。
展開	2 情報に関する技術を例に挙げ、社会的・環境的・経済的側面から、プラスの影響とマイナスの影響(課題)を評価する。 (具体的な考えの例) ・「携帯電話の技術には、こんなプラスとマイナスがあるな。」 ・「医療の面ではこんな課題があるぞ。」	◎必要性、環境に対する負荷、社会に対する影響、経済性、人権や福祉など、技術を評価する視点を明確にして、活用の仕方を考えさせる。  ☆例に挙げた技術について、プラスの影響とマイナスの影響(課題)を挙げているか。
	3 課題を解決するために、適切な技術の活用法や、技術との付き合い方を見いだす。 (具体的な考えの例) ・「プログラムを予想できる製品を選んでその性能を引き出せばいい。」 ・「メディアに頼りすぎず、現実のコミュニケーションも尊重しなければ。」	◎今後の社会の在り方や、自分の立場、社会の一員としての役割や責任など、技術を活用する場面や立場を明確にさせる。  ☆課題に対する、適切な解決策を見いだしているか。
まとめ	4 自分なりに、情報に関する技術との付き合い方やかかわり方をまとめる。	○自分自身はどうしていこうと思うか、はっきり表明させる。  ☆学習したことを踏まえ、自分なりの態度が表明されているか。

## ●実践のポイント●

## ・視点を広げることがキャリア教育になります

様々な視点から技術を見つめさせることが、技術的にものごとを吟味する能力や態度をはぐくみ、生徒のキャリア発達につながります。

## ・技術を生かす職業や、技術開発にも触れましょう

利用者や消費者の視点だけでなく、プロや働き手の視点、技術そのものを生み出している人々(開発者)の視点などに触れることで、職業観や勤労観がはぐくまれます

### 3 実践例(2)

## 《家庭分野・第3学年》 家庭や社会の一員として、生活の自立を目指す

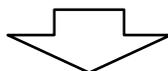
### 家庭や周囲の人々とのかかわり方を考えよう

#### ねらい

家庭と家族関係について学習する中で、生徒自身が家族の一員として役割を担っていることや、家庭が地域と密接なかかわりをもっていることに関心をもたせながら、地域の人々とのつながりについて理解させていきます。

#### 本実践とキャリア教育

この題材では、生徒自身に家庭や社会の一員であることを自覚させ、家族や地域、周囲の人々とのかかわり方を考えさせるようにします。こうした学習を通して、家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解させることが、生徒のキャリア発達を促し、家庭や社会の一員として、生活上の課題を解決しながら、生活の自立を目指す態度をはぐくむことにつながります。



### 全体構想

主な学習活動	時数	
<b>中学生になるまで A(1), (2)ア</b> ・自分の成長を振り返る ・家庭や家族の基本的な機能を知る ・家庭と地域とのかかわりを理解する	5	<道徳> 4-(6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。
<b>子どもの成長 A(3)ア</b> ・幼児の発達と生活の特徴を知る ・家族や周囲の人々とのかかわりを考える	4	<特別活動・学級活動> (2)ウ 社会の一員としての自覚と責任 (2)オ 望ましい人間関係の確立 <特別活動・生徒会活動> (5) ボランティア活動などの社会参加
<b>幼児との交流 A(3)イウエ, (2)イ</b> ・ふれあい交流の課題を設定する ・交流の実践計画を立てる ・課題解決の実践を振り返り、自分の役割を考える ・家族関係をよりよくする方法を考える	8	<総合的な学習の時間> 問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動につなげる。

#### ●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

幼児の成長と生徒自身の成長を結び付けやすくするために、保健体育科(体育理論、心身の機能の発達等)や社会科(私たちと現代社会)等の学習内容と関連付けて考えさせましょう。このような工夫により、一人一人の生徒の自己理解が深まり、家庭や社会の一員であることの認識も深まります。

## 態度をはぐくむ

## 《本時のねらい》

幼児と触れ合う活動を振り返りながら、幼児への関心と理解を深める大切さに気付くとともに、幼児へのかかわり方を具体的に考えさせる。

## 《展 開》(16/17時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導 入	1 幼児と触れ合う活動はどうだったか思い出す。	○お互いに学び合いができる学習になるように関心をもたせる。
展 開	2 実践のふり返りを発表し、課題を共有する。 ・幼児と触れ合う活動で取り組んだこと ・幼児とのかかわり方における自分の課題	◎周囲の人々とのかかわりや人間関係の大切さに気付かせる。 ☆友達からのアドバイスにより、気付いたことをまとめ、自分の課題として明確にとらえているか。
	3 幼児とかかわるために自分なりにどんな工夫をしたら良いか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">私たちができることは何だろうか？</div> ・地域の幼児に声を掛けていきたい。 ・幼児が安心して歩けるように、自転車の置き方を工夫したい。 ・身近な幼児と触れ合う行事に参加したい。	◎家庭や地域の一員としての自覚や役割をもてるようにする。
ま と め	4 自分の成長にかかわってきた家族や周囲の人々へ、感謝の気持ちをまとめる。	○幼児と触れ合う活動を通して学んだことを、友人関係や家族とのかかわりにどのように生かしたいのか考えさせる。 ☆体験や学習を通して学んだことを、自分の生き方に生かそうとしているか。

## ●実践のポイント●

## ・「○○の一員」であることを自覚させることが、キャリア教育になります

様々な場面で家庭や地域など集団の一員であることを自覚させ、家族や地域、周囲の人々とのかかわり方を考えさせるようにすることが、生徒のキャリア発達につながります。

## ・生活を見直し、課題を見つけ、その解決を目指す学習を大切にしましょう

生徒自身に課題解決方法を考えさせるような指導が、生徒のキャリア発達を促します。特に内容A「家族・家庭と子どもの成長」を扱う際には、家庭や社会の中でともに生きているほかの人のことを十分理解させ、これからの生活を展望して、人とのより良いかかわり方を考えさせることが大切です。

## 外国語

### 1 外国語(英語)科を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

外国語(英語)はコミュニケーションを図るための一つ的手段です。したがって、外国語(英語)を活用することは、必然的にコミュニケーション能力(人間関係形成・社会形成能力)を高めることになり、ひいては、自他の理解の能力(自己理解・自己管理能力)につながっていくものです。また、扱う題材によっては、キャリア教育におけるその他の諸能力(課題対応能力、キャリアプランニング能力)の育成にも関与するものです。

『中学校学習指導要領解説 外国語編』(平成20年9月)では、教科の目標について次のように解説しています。

#### 中学校学習指導要領解説 外国語編 《抜粋》

- 外国語科の目標は、コミュニケーション能力の基礎を養うことであり、次の三つの事項を念頭に置いて指導する必要がある。
  - ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
  - ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
  - ③ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
- 小学校に外国語活動が導入され、特に音声面を中心として外国語を用いたコミュニケーション能力の素地が育成されることになった。このため、中学校段階では、「聞くこと」、「話すこと」に加え、「読むこと」、「書くこと」を明示することで、小学校における外国語活動ではぐくまれた素地の上に、これらの四つの技能をバランスよく育成することの必要性を強調したわけである。
- ③は外国語科の目標の中核をなしているが、①や②と不可分に結び付いたものである。

また、この外国語科の目標を踏まえ、英語の目標は、中学校学習指導要領で次のように示されています。

#### 中学校学習指導要領 外国語 《抜粋》

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

このように、外国語(英語)科の学習においては、言語や文化に対する理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりすることとともに、聞くことや読むことにおいて話し手や書き手の意向を理解することや、自分の考えなどを話したり書いたりすることを重視しています。

外国語(英語)科の目標における「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことは、キャリア教育の充実を図るための、社会的自立や職業的自立を目指したその基盤となる「基礎的・汎用的能力」の育成に直接的につながるものと言えるのです。

## 2 中学校3年間を通した外国語(英語)科の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

外国語(英語)科では、これからの国際社会に生きる日本人として、他国や他地域の言語や文化に対する理解を深め、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っている資質・能力を養う観点から、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を総合的に育成するための指導の充実を図ることが大切です。また、英語の学習は、人間関係を基本にした言語活動から成り立っています。他者とのコミュニケーションを通して自己理解や他者理解を深め、お互いを尊重し合う態度を育成していきます。このような学習の積み重ねが、キャリア教育の充実を図るための、社会的自立や職業的自立を目指したその基盤となる「基礎的・汎用的能力」の育成につながるものであり、各学年の発達の段階に応じたつながりを次の表に示しています。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する外国語(英語)科の指導内容の例

学年／能力	言語活動としての話題	人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
第1学年	自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から、簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。	<聞くこと> ・まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。 <話すこと> ・聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。	<聞くこと> ・質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 <読むこと> ・伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。	<話すこと> ・与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。 ・つなぎ言葉を用いるなどの工夫をいろいろして、話を続けること。	<読むこと> ・書かれた内容や考え方などをとらえること。 <書くこと> ・感想、賛否やその理由を書いたりすること。 ・聞いたり読んだりしたことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
第2学年	事実関係を伝えたり物事について判断したりした内容などの中から、コミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。	発達 の 段階 に 応 じ た 高 度 化  ↓	↓	↓	↓
第3学年	様々な考えや意見などの中から、コミュニケーションを図れるような話題を取り上げる。				

外国語(英語)科の学習は、各学年の学習段階に応じて、適切な言語活動場面の設定のもと有効な言語材料を活用し、コミュニケーションを図っていくものです。ある意味、キャリア教育の発達の段階における目標設定は、言語活動における学習段階を考慮した配慮事項と密接に関連しています。このように、外国語(英語)科の学習を実践していく上で、キャリア教育の視点(『基礎的・汎用的能力』の視点)を組み込んでいくことは、将来、社会的自立・職業的自立を目指す子どもたちにとっては、とても重要なこととなります。

《英語・第2学年》 自分自身の生き方を考えよう

Try to Be the Only One

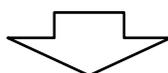
ねらい

本単元は、沖縄県出身のテノール歌手・新垣勉さんの人生の軌跡と彼のモットーを通して、「オンリーワン(かけがえのない自分, 自分にしかできない生き方)」とは何か、「生きることの意味」とは何かを生徒に問うと同時に、沖縄の歴史、戦争と平和の問題など豊かな内容を含んでいる。本単元を通して、新垣勉さんがその言葉に込めた意味を読み取り、それについて深く考えさせたい。

本文の内容については、新垣勉さんの人生をたどりながら、様々な出会いを通して彼の生き方・考え方がどのように変化していったかを読み取らせたい。また、本文の内容理解を深めるとともに、感情をうまく移入させながら読めるよう、読み方の指導(表現活動)にも努める。

本実践とキャリア教育

生後間もなくの事故によって視覚障害者となった新垣勉さんの生い立ちから、自分自身の生き方や考え方を再構築させます。また、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力等の諸能力の育成を図ります。



全体構想

主な学習活動	時数	
○新垣勉さんの生い立ちを理解する。	1	<道徳> 3-(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。
○新垣勉さんが少年のころに出会った牧師。新垣勉さんは初めて自分の理解者を見いだす。 (内容理解のためのQ&A:ワークシート)	1	
○牧師のもとで新しい人生をスタートした新垣勉さん。牧師になるために一生懸命勉強し、歌の勉強も続けた。そして、事故をめぐってこれまでもってきた両親に対する憎しみも薄らいでいった。(心情理解)	1	<総合的な学習の時間> 職業や自己の将来に関する学習
○新垣勉さんのモットー。「さとうきび畑」にこめられた沖縄の明るさと悲しみについて知る。 (内容理解のためのQ&A:ワークシート)	1	
○まとめ (内容理解の整理及び発展学習:ワークシート:英文にて感想記入)	1 (本時)	<特別活動・学級活動> (3)学業と進路 エ 望ましい勤労観・職業観の形成 オ 主体的な進路選択と将来設計 など
○本文の音読(表現活動) (本文の内容理解を深めるとともに、感情移入をうまくしながら読む。)	全・5	

●更なる充実のために —他教科における学習と関連付けた指導—

「国語」の「読むこと」を通して、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げようとする態度の育成や、「音楽」において音楽の特徴をその背景となる文化や歴史と関連付けて、幅広く主体的に鑑賞する能力(歌詞の理解)の育成などとの関連を重視することが大切です。

## 《本時のねらい》

新垣勉さんの人生から感じたこと、考えたことについて、他者との意見交換のもと、自分の生き方を再構築させるとともに、感じたこと、考えたことを英文で書くことができる。

## 《展 開》(1/5時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 あいさつ Q & A ・元気よくあいさつを行う。 ・質問事項に対して、適切に答える。 2 Review Reading ・声出しを兼ねて本文を音読する。	○準備ができていて、集中した規律ある雰囲気を作る。  ○正しい姿勢で、音読させる。 ☆場面や心情に応じた音読ができているか。(適切な音読)
展開	3 「さとうきび畑」を聴く ・歌を聴いた後、ワークシートの質問に答える。 4 意見交換(情報の共有化) ・お互いの考えに対して、意見交換を行う。 5 ワークシートの続き ・新垣勉さんの生い立ちやモットーから学んだことや感じたことについて記入する。 6 意見交換(情報の共有化) ・お互いの考えに対して、意見交換を行う。	○歌の背景を説明し、集中して聞かせる。  ◎意見交換を通して自他の理解を深めるとともに、自分自身の生き方を真剣に見つめ直す。  ◎意見交換を通して自他の理解を深めるとともに、自分自身の生き方を真剣に見つめ直す。
まとめ	7 ワークシートに感想を英文で記入 ・教科書の本文の内容に関する質問をする。 8 次の授業確認及びあいさつ ・次の授業の確認をする。 (次の授業の冒頭にて感想文の発表を行う) ・元気よくあいさつを行う。	○机間指導を行い、しっかり記入できているか確認する。  ☆文のつながりや構成を考えた文章を記入し、自分の考えが表現できるか。(適切な表現・筆記)

## ●実践のポイント●

## ・生徒一人一人の表現活動を大切にしましょう！

リーディングのポイントを明示して、感情をうまく移入させながら読めるよう、読み方の指導(表現活動)に努めましょう。

## ・生徒の変容をしっかりとらえましょう！

ワークシートのまとめの部分をも有効活用して、新垣勉さんの生い立ちから、自分自身の生き方や考え方を再構築させましょう。また、ワークシートの点検活動を通して生徒の変容を確認しましょう。

# 道徳

## 1 道徳を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

キャリア教育が目指す「社会的・職業的自立，社会・職業への円滑な移行に必要な能力の育成」のためには，人生における「働くこと」の重要性や意義についての考えや自己の将来に対する意欲の基盤となる勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立できる子どもの育成が求められます。そこで，学校における道徳教育は，豊かな心をはぐくみ，人間としての生き方の自覚を促し，道徳性を育成することをねらいとする教育活動であり，社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割を担うことから，キャリア教育との深いかかわりがあるといえます。

このことは、『中学校学習指導要領』の第1章総則「第1 教育課程編成の一般方針」における道徳教育をめぐる次の規定にも明確に示されています。

### 中学校学習指導要領 総則 《抜粋》

- 2 学校における道徳教育は，道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり，道徳の時間はもとより，各教科，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて，生徒の発達<sup>かなめ</sup>の段階を考慮して，適切な指導を行わなければならない。(中略)道徳教育を進めるに当たっては，教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに，生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め，家庭や地域社会との連携を図りながら，職場体験活動やボランティア活動，自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。(後略)

道徳教育の目標である道徳性の育成については，中学校学習指導要領において「道徳的な心情，判断力，実践意欲と態度などの道徳性を養う」と示されています。

人間としてのよりよい生き方や善を志向し，道徳的行為への動機として強く作用するのが道徳的心情です。また，道徳的判断力によって，人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し，様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断し，場面において機に応じた道徳的行為が可能になるのです。さらに，道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性を意味するのが道徳的実践意欲と態度です。

また、『中学校学習指導要領解説道徳編』（平成20年9月）が，「指導の基本方針」について次のように解説している点にも注目すべきでしょう。

### 中学校学習指導要領解説 道徳編 《抜粋》

#### (3)自らの人間としての生き方についての自覚を深める指導を充実させる

中学生の時期は，自己を見つめ将来における自分の生き方について強い関心をもつようになる。その際，人生の意味をどこに求め，いかによく生きるかという問題は，人間とは何かということについての探求とともに深められるものである。また，将来に向けて自らの進路を選択する大事な時でもあることから，自己のもつ個性の発見や伸長を図りつつ，自らの人間としての生き方についての自覚を深める指導が求められる。更に，キャリア教育との関連を図り，自己の個性・能力・適性を理解するとともに，それらを生かすための啓発的体験と，将来の充実した生き方を支える道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導が大切である。

キャリア教育が目指す「基礎的・汎用的能力」の育成や，これらの能力育成を通じた勤労観・職業観などの価値観形成のためには，その基盤となる自己の判断基準となる価値観形成が求められます。価値観は，道徳性の発達を促す道徳を通して道徳的価値を自覚させることで再構築されます。例えば，自己を見つめ自己を理解する，周囲とのよりよい人間関係を築く，体験活動の意義や学びの価値に気付くなど，道徳を通して醸成された価値観により，より良く生きようとする意欲や態度は，生徒自身の自発的，自律的な道徳的行為の原動力につながるのです。

## 2 中学校3年間を通じた道徳の指導内容とキャリア教育

### —勤労観・職業観等の価値観と「基礎的・汎用的能力」を視点として—

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となる道徳の時間は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれにもとづいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成することを目標としています。多くの人にとって、その人生において職業人として生きることの比重は大きいといえます。勤労観や職業観は、日常生活の中での役割や責任の遂行、個人の個性・能力・適性などの発揮、生計維持、規範の遵守などの職業倫理に対する考えや、職業や働くことそのものに対する人それぞれの価値観であるといえます。どのような職業に就き、どのような職業生活を送るかは、人がいかに生きるか、どのような人生を送るかということと深くかかわっています。道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、いずれも、人が社会的、職業的に自立し生きていく上で必要とされるものです。

道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容は、学習指導要領上に次の四つの視点と24の項目で示されています。以下の表は、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」に関連する内容項目を分類整理した例です。

- 1 主として自分自身に関すること
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する道徳の指導内容の例

勤労観・職業観等の価値観						
人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力	課題対応能力		キャリアプランニング能力	
礼儀	2-(1)	望ましい生活習慣	生命尊重	3-(1)	強い意志	1-(2)
思いやり	2-(2)		自然愛護	3-(2)	自主・自律	1-(3)
信頼、友情	2-(3)	強い意志	人間の気高さ	3-(3)	理想の実現	1-(4)
異性理解	2-(4)	自主・自律	家庭生活の充実		自己理解、個性の伸長	
寛容、謙虚	2-(5)	理想の実現		4-(6)		1-(5)
感謝	2-(6)	自己理解、個性の伸長	よりよい校風の樹立		権利、義務	4-(1)
権利、義務	4-(1)			4-(7)	役割、責任	4-(4)
公德心、社会連帯		生命尊重	郷土の発展への貢献		勤労の意義と尊さ	
情報モラル	4-(2)			4-(8)		4-(5)
正義、公正公平	4-(3)		伝統の継承と文化の創造への貢献	4-(9)		
集団生活の向上、役割、責任	4-(4)		国際社会への貢献	4-(10)		
勤労の意義と尊さ、奉仕の精神	4-(5)					

《第1学年》 自分について考える

こうなりたい自分 1-(5)自己理解・個性の伸長

ねらい

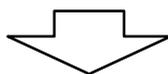
自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を養う。

資料名

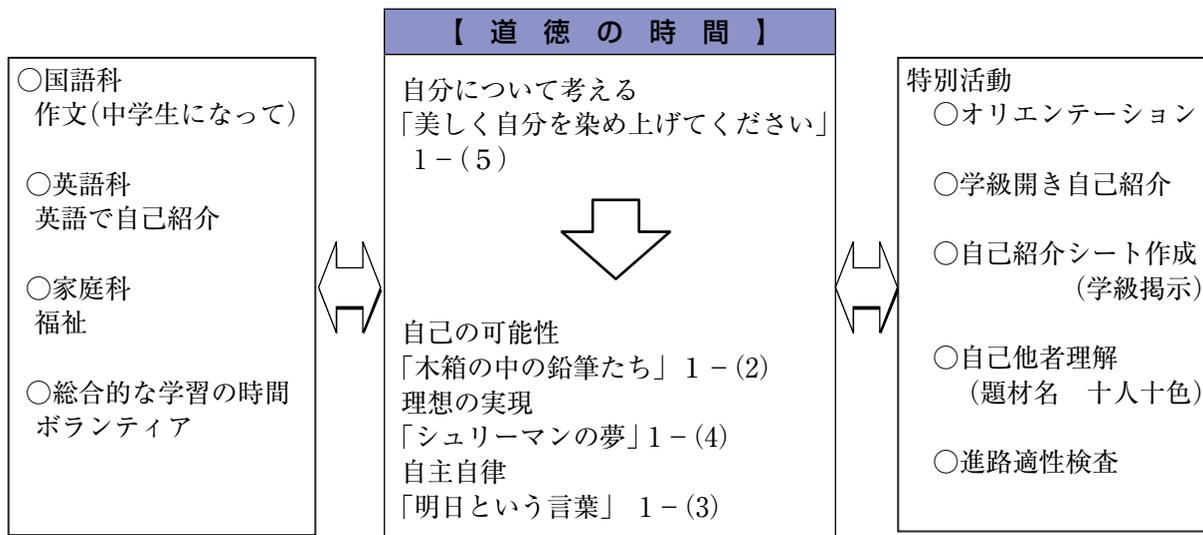
「美しく自分を染め上げてください」サトウ ハチロー作

本実践とキャリア教育

一人一人が心身ともにそれぞれの成長の途上にある中学生にとって、自己を見つめ、生き方の課題を見いだすことは大切なことです。そして、自我の目覚めとともに自主的に生きる道を模索し始める時期であるとも言えます。特に、中学校入学時は、生徒は将来への夢やあこがれをもち、これまでの自己の課題を克服したり、向上心をもったりして新しい学校生活に臨もうとする意欲が高まっています。本資料は、人の成長や生き方を考えていくための導入として、今後の自分をどのように染め上げていけばよいかを考えさせる上で有効であると考えます。また、キャリア教育においては、「自己理解・自己管理能力」をはぐくむための基盤となる価値観形成に作用し、自分の個性について考え、今後の生活をよりよく生きようとする意欲を喚起する機会となり得ます。さらに、進路指導においては自己理解のための学習へと発展的につながる内容であるといえます。



全体構想



## 《本時のねらい》

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を養う。

## 《展 開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 黒板にはった様々な色画用紙の中の自分をたどる色の下に各自のネームプレートをはる。	◎今の自分を色にととえる。 ○和やかな雰囲気全員が参加できるようにする。
	2 資料を読む(範読) 3 印象に残ったところを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分らしく、美しい色に染め上げるためには、今の自分には何が大切だと思いますか。</div>	○用意したワークシートにまとめさせる。 ☆印象に残ったところを示すことができたか。 ◎そのため必要なことは何かを考える。 ○これまでの自分を振り返り、今後を想定させる。 ☆理想の自分になるためには何が必要かについて考え、意見をもつことができたか。 ○できるだけ多くの生徒の考えを発表させ、受容する。 ○向上心をもつことの大切さに気付かせる。
まとめ	5 小さな画用紙に大切にしたい思いを書いて、染め上げたい色に塗る。 6 「心のノート」を読む	☆自分を染め上げたい色と自分にとって大切だと思うことを明確にすることができたか。 ○「心のノート」のp.10, 11を読ませ、意欲的に生きることの大切さについて考えさせる。

## ●実践のポイント●

## ・自己理解・自己管理能力の育成の出発点になるようにしましょう。

自分を見つめ、より良い自己の生き方についての考えを深めさせることが大切です。また、これからの中学校生活を意欲や向上心をもっておくことができるように、自己を前向きにイメージさせるようにすることが効果的です。

## 総合的な学習の時間

### 1 総合的な学習の時間を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して」、「自己の生き方を考えることができるようにする」ことを目指している総合的な学習の時間は、キャリア教育と深いかかわりをもっています。この点について、『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（平成20年9月）では、総合的な学習の時間における目標の趣旨に関する解説の中で次のように整理されています。

#### 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 《抜粋》

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自己の生き方を考えることができるようにすることが大切である。

「自己の生き方を考えることができる」とは、以下の三つのことである。

一つには、人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。

二つには、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。

これらの二つを生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることが三つ目である。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気づき、自分の人生や将来、職業について考えていくことである。

このように、総合的な学習の時間においては、学習の成果から達成感や自信をもち、自分の良さや可能性に気づき、自分の人生や将来、職業について考えていくことが大切です。また「自己の生き方を考える」ことが、「キャリア教育」のねらいでもある「社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力や態度の育成」につながっていくものと考えられます。

また、中学校学習指導要領では、総合的な学習の時間の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動を例示しています。さらに、「職業や自己の将来に関する学習活動」が学習活動の例として挙げられています。職業や自己の将来にかかわる課題を取り上げ、具体的な体験活動や調査活動、仲間との話し合いを通して探究的に学ぶ機会をもつことは、生徒が自己の生き方を具体的、実際的なものとして考えていくことにつながります。このことは、自己の将来を力強く着実に切り開いていこうとする資質や能力、態度の育成において極めて重要なものです。

中学校以降のキャリア教育推進において重要なのは、社会や経済の仕組みを知識として学ぶことと体験を通して学ぶことの両面から、現実社会の厳しさも含めて、一人一人の将来に実感のあるものとして伝えていくことと考えられます。このことから、中学校における職場体験活動などの体験的な学習活動は、キャリア教育の視点から重要な役割を果たすものとして位置付けられます。

進路の選択を迫られる場面を迎える義務教育修了段階である中学校において、働くことや職業を自分とのかかわりで考えることや、自己の将来を展望しようとすることは、自己の生き方を考えることに直接つながる重要な学習となります。職場体験活動などの自己の将来にかかわる体験活動は、社会人・職業人として自立できる人間を育てるキャリア教育に直接結びつく重要な学習です。その際、総合的な学習の時間においては、単に体験活動を取り入れるだけでなく「問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習活動が行われるようにすること」が欠かせません。

## 2 中学校3年間を通じた総合的な学習の時間の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

総合的な学習の時間においては、総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において目標や内容を定めることとなっています。内容を定める際には、日常生活や社会とのかかわりを重視した上で、どのような学習課題を扱うのかなどを明らかにすることとされています。また、育てようとする資質や能力及び態度として、各学校において定める目標を、実際の学習活動へと実践化するために具体的・分析的に示すことも求められています。

『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画の作成に当たっての配慮事項」には「育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること」とあり、職業や働くことについて探究的に学習する場合の例として、それぞれの視点で、「身の回りにはどのような職業があり、どのような特徴があるか調査する」、「自分の将来の職業を考え、そのために必要なことに取り組もうとする」、「自己の将来の目標に向けて、行動したり地域の活動に参加したりする」などが示されています。

これらの総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度は、「社会人・職業人として自立できる人間を育てる」ことを目標としているキャリア教育において、身に付けさせたい基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」の4つの具体的な能力と符合するものであると言えます。4つの能力の視点から関連をみると、例えば下記のように考えられます。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する 総合的な学習の時間の学習において育てようとする資質や能力及び態度の例

分野／能力	人間関係・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
学習方法に関すること	・ 相手や目的、意図に応じて、論理的に表現する。	・ 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもつ。	・ 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する。 ・ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。	・ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	・ 自らの行為について責任をもって意志決定する。	・ 自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する。	・ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。	・ 自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 ・ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。
他者や社会とのかかわりに関すること	・ 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する。 ・ 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する。	・ 互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する。	・ 課題の解決に向けて社会活動に参画する。	・ 環境の保全を考えて行動する。

《第1学年》 自己の在り方やよりよい生き方を考えさせる

私たちの未来へ

ねらい

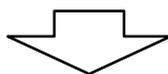
職場訪問や職場体験活動を通して、働くことの意義や職業への理解を深め、自己の在り方やより良い生き方を考えることができる。

- 様々な職業について、情報を収集し、感じ取ったことや考えを分かりやすくまとめて表現することができる。
- 職場体験活動を通して地域の産業や勤労の価値などについて体感するとともに、将来の自分の生き方について考えを深めることができる。
- 職場体験活動を通して、マナーや礼儀を知るとともに、自己の将来に向けて自分なりの行動をとることができる。

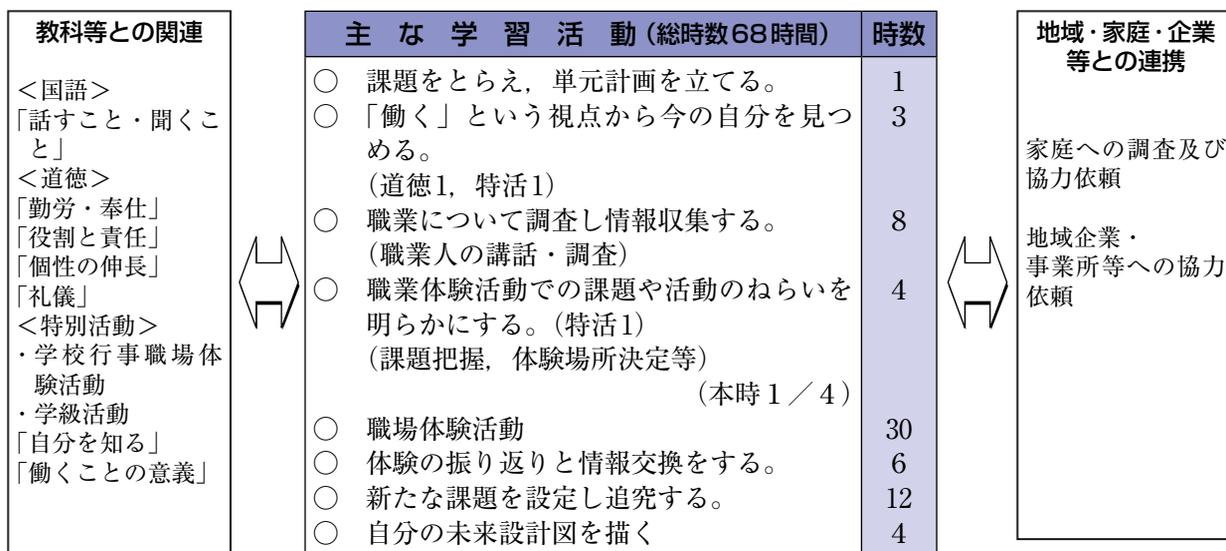
本実践とキャリア教育

職場体験活動を中心とした本実践は、中学校におけるキャリア教育の重要な部分を担うものです。これまでも行われていた職場体験活動を、キャリア教育全体の中でとらえ直し、その位置付けを明確にすることが大切です。

また、各教科等との関連や地域・企業との連携を図りながら、生徒一人一人が将来の自分の生き方について希望をもって考えることができ、探究的な学習となるように単元を構成していくことが大切です。



全体構想



## 《本時のねらい》

自分の興味や関心のある職種を選択し、職場体験活動の課題や見通しをもつことができる。

## 《展開》(13/68時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 前時までの活動を振り返り、職場体験活動への意欲をもつ。 ・本時の活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             職場体験活動の課題や見通しをもとう。           </div>	○ 写真やカードなどから、前時の講話の内容や、職業調べ、自分の夢についての話し合いを振り返ることができるようにする。 ○ 単元計画や本時の活動について確認する。
	2 職業や地域の事業所等について確認する。 ・調べた職業や事業所等の仕事の内容について確認する。 3 職場体験活動のねらいや課題を把握する。 ・前時までの活動で課題となっていたことを踏まえ、自分が職場体験活動で学習したいことや解決したいことを整理する。 4 体験活動の場所を決定する。 ・職業調べ、自分の興味や課題をもとに、職種を考え、体験場所を決定する。 5 職場体験活動に必要な準備について話し合う。 ・事前訪問、礼儀、安全対策、まとめ方等	◎ 自分たちで調べた職業や企業だけでなく、地域にある様々な事業所等にも関心が向くよう、写真やパンフレット等も準備しておく。 ◎ 自分の夢や希望と関連させ、何のために、何を学びたいか、カード整理の方法や小グループでの意見交換などにより、自分の目的や課題をはっきりさせる。 ◎ 特別活動・学級活動における「働く意義を考える」の学習内容を学習カードなどにより振り返り、自分の考えを整理する上での参考にさせる。 ◎ 自分の課題、夢や適性を考え、友達の見聞などを参考にしながら、体験場所を決定できるようにする。その際、特別活動・学級活動における「自分を知る」の学習でまとめた「自分カード」なども参考にさせる。 ○ 活動に向けた具体的な準備についての見通しと自覚をもたせる。
まとめ	6 本時のまとめをする。 ・それぞれの目的や課題、活動場所の発表 ・準備についての確認	☆ 自分なりに職場体験活動の目的や課題を把握し、これからの見通しをもつことができたか。

## ●実践のポイント●

## ●重点化を図った年間指導計画と一人一人の目的意識・課題意識づくりが大切です

職場体験活動を意義あるものとするためには、探究的な学習となるよう、職業や将来についての学習を、年間を通して行うなど、問題の解決や探究活動が意図的、計画的に位置付けられた年間指導計画を作成することが大切です。また、自分の生き方を考えることができるよう、夢や希望とのかかわりを大切にして、一人一人が目的意識や課題意識をもって活動に取り組むことができるようにすることが大切です。

## 特別活動

### 1 特別活動を通じたキャリア教育実践についての基本的な考え方

特別活動は、キャリア教育の中核的な実践の場です。これまでも進路指導の直接的な指導の領域として大きく関与してきています。次に示す特別活動及び各活動等の目標にも具体的に表れているように、特別活動は今後のキャリア教育実践の推進においてますます重要な役割を担うことになるでしょう。

#### 中学校学習指導要領 《抜粋》

##### 特別活動の目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

学級活動の目標	生徒会活動の目標	学校行事の目標
学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

このような特別活動を通して育てる態度は、キャリア教育によって育成する「基礎的・汎用的能力」、つまり「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」と密接に関連するものです。このことから、特別活動は、キャリア教育の実践に直接的にかかわる領域であると言えるのです。ここでは、その一例として、『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成20年9月）から、学級活動の「(3)学業と進路」に関する解説の一部を引用します。

#### 中学校学習指導要領解説 特別活動編 《抜粋》

- 生徒が将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、生徒一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして、生きることについて自己の問題として真剣に受け止め、それぞれの深い結びつきを理解していくことが必要である。
- ここでは、学ぶことと働くことを通じた人間としての生き方についての自覚、日々の学習と進路の選択に主体的に取り組む態度や能力の育成、望ましい勤労観・職業観の形成、将来の生き方と進路の適切な選択などについて取り上げていく。

この解説が示すように、学級活動における「学業と進路」はキャリア教育の中核的な実践の場としての役割を果たします。また、学級活動のほかの内容もキャリア教育に深く関連し、生徒会活動や学校行事もキャリア教育として重要な内容を多く包含しています。上の表に示した特別活動の目標及び学級活動、生徒会活動、学校行事のそれぞれの目標をしっかりと押さえた実践をしていくことが、キャリア教育の推進にとっても極めて重要であると言えるでしょう。

「なすことによって学ぶ」ことを方法原理とする特別活動の各内容に、着実に取り組み、今まで以上に学校教育全体で学んだキャリア教育に関する知識を統合し、深化させ、体験的に実践していく。このことが今、キャリア教育実践の推進に向け、特別活動に強く求められているところであり、大きく期待されているところです。

## 2 中学校3年間を通じた特別活動の指導内容とキャリア教育

### —「基礎的・汎用的能力」を視点として—

特別活動は、生徒が学級集団をはじめとする学校内の様々な集団に所属し、その中で互いに理解し合い、高め合い、個人と個人、個人と集団、集団相互が互いに作用し合いながら、集団活動や体験的な活動を進め、それぞれの生徒が全人的な発達を遂げ、また、所属する集団自体の改善・向上を図っていくものです。また、特別活動は、将来において個人が社会的な自己実現を図るために必要とされる資質の育成、さらに自己の所属する様々な集団に所属感や連帯感をもち、集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養うこと、そして、人間としての生き方の自覚と自己を生かす能力の育成を目指すものです。

このことは、社会的・職業的自立を目指すキャリア教育と深くかつ直接的に結び付くものです。次に一例として、特別活動の3つの内容と社会的・職業的自立への円滑な移行に必要な「基礎的・汎用的能力」との関連を示します。

#### 「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する特別活動の指導内容の例

活動／能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
学級活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会の一員としての自覚と責任</li> <li>望ましい人間関係の確立</li> <li>男女相互の理解と協力</li> <li>食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成</li> <li>学級の組織づくりや仕事の分担処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己及び他者の個性の理解と尊重</li> <li>思春期の不安や悩みとその解決</li> <li>心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</li> <li>性的な発達への適応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級や学校における生活上の諸問題の解決</li> <li>学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>進路適性の吟味と進路情報の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動の意義の理解と参加</li> <li>学ぶことと働くことの意義の理解</li> <li>自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用</li> <li>望ましい勤労観・職業観の形成</li> <li>主体的な進路の選択と将来設計</li> </ul>
生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>好ましい人間関係を深めるための活動</li> <li>学校生活における規律と良き校風の確立のための活動</li> <li>異年齢集団による交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の教養や情操の向上のための活動</li> <li>学校行事への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な問題の解決を図るための活動</li> <li>生徒の諸活動についての連絡調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の保全や美化のための活動</li> <li>ボランティア活動などの社会参加</li> <li>生徒会の計画や運営</li> </ul>
学校行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>共に助け合って生きることの喜びの体得</li> <li>校外における集団活動にて教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係を体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な行動や規律ある集団行動の体得</li> <li>責任感や連帯感の涵養</li> <li>生涯にわたり、文化や芸術に親しむための豊かな情操の涵養</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団のきまりや社会生活上のルール、公衆道徳などの体験</li> <li>前年度の計画の見直しと課題解決のための立案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤労の尊さや創造することの喜びの体得</li> <li>職場体験などの職業や進路にかかわる啓発的な体験</li> <li>ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験</li> </ul>

《学級活動・第1学年》 社会人，職業人から生き方に学び将来への関心

身近な人の生き方から学ぼう

ねらい

- ・働くことの楽しさや厳しさを知り，勤労や職業に対する関心・意欲を高める。
- ・人は，勤労や職業を通じて自己の能力や適性を生かし，社会の一員として役割を果たしていることを理解させる。

本実践とキャリア教育

生徒は一般的に「進路」というと卒業期の進路選択ととらえがちです。社会においても，勤労や職業に対する理解の不足や安易な考え方など，社会的・職業的自立の未熟さが指摘されているところです。それだけに，この時期に勤労や職業に対する望ましい在り方をはぐくむことは進路指導上も，キャリア教育上も重要なこととなります。

このような課題を踏まえて，本実践では，新しい環境の中で豊かな人間関係を築きながら，様々な社会的役割や職業及び職業生活について理解させていきます。そして，人は何のために働くのか，なぜ働かなくてはならないのかを考えさせます。さらに将来，社会人，職業人として自立し，生きがいのある人生を築こうとする意欲や態度の育成につなげる実践です。



全体構想

【 事 前 の 活 動 】

身近な人の職業調べの調査内容や調査方法を検討する。	[放課後：学級活動委員会]
「職業調べ新聞」の内容について説明する。	[帰りの会：学級活動委員会]
調査伺いの依頼文を訪問先に持参する。	[夏季休業日：各グループ等]
インタビュー結果をワークシートに記入する。	[夏季休業日：各グループ等]
「職業調べ新聞」を作成する。※後日，冊子にする。	[夏季休業日：各グループ等]
発表の仕方や話し合いの内容を検討する。	[放課後：学級活動委員会]
働く意義などの考えをカードに記入し掲示する。	[帰りの会：全員]
本時に向けてゲストティーチャーと教師の打合せをする。	
本時に向けてゲストティーチャーと司会者との打合せ及びリハーサルをする。	[放課後：学級活動委員会]

<道徳>  
4-(5)  
勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。



【 本 時 の 活 動 】

「人は何のために働くのか考えよう」



【 事 後 の 活 動 】

- 自己評価カードの活用と個別面談の実施
- 学級通信などの配布により，家庭への情報提供と職場への感謝の表明

## や意欲を高める

## 《本時のねらい》

- ・ゲストティーチャーや生徒相互の発表，話し合いを通して，社会の一員としての理解を深め，望ましい勤労観・職業観を形成する。
- ・社会的・職業的自立に向け，自己の能力，適性を発揮しようとする主体的な態度を育成する。

## 《展開》

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
		配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	1 学級活動委員からこれまでの活動の流れを聞く。 2 本時のねらいを確認する。 3 ゲストティーチャーの紹介を聞く。	○座席の配置をコの字型，グループ別にするなど話しやすい環境にする。 ◎夏季休業中にインタビューした体験，働く人の考えを思い起こさせる。 ◎紹介により，他者を理解する態度を整える。
活動の展開	4 カードに記入した内容の話し合いと発表をする。 ・「人は何のために働くのか」 ・「働く意義や生きがいについて」 5 ゲストティーチャー（異業種5～6名）と話し合う。 ①ゲストティーチャーの話聞く。 ②質問を含め，意見交換をする。	◎司会者が中心となり互いカードを説明し，互いの話し合いで分類のタイトルを決定できるようにする。 ○人は何のために働くのか，その意義や生きがいについて適宜担当が補足を加え，整理，発表しやすいようにする。 ◎ゲストティーチャーと代表とのパネルディスカッション形式をとり，自他の考えを深めさせる。 ☆人の話を聞き，自分の意見や考えをまとめ，正確に本時のねらいに合った意見を発表することができる。
まとめ	6 今後の生活における努力事項を評価カードに記入する。 7 教師の話聞く（お礼を含む）。	◎☆カードにしっかりと記入させ社会の一員として，自分の役割を自覚できるよう評価する。 ◎☆望ましい勤労観・職業観をもち，自己の能力・適性を生かそうとする態度をとれるよう評価する。

## ●実践のポイント●

## ・指導効果を高める工夫

複数のゲストティーチャーに，グループごとにインタビューすることで，発言しやすい雰囲気と多くの情報を得ることができます。

短冊の発表を全員が行うことで，他の意見を参考にし，自分の考えを深められます。

## ・事後の指導と活動

将来の夢の実現に向けて，自己評価カードを有効に活用したり，個別面談を実施したりしながら指導を展開していきましょう。

授業の様子や生徒の感想を学級通信などにまとめ保護者や，感謝の意を込めて職場の訪問先へ配布しましょう。

本時の学習は職場体験活動など，今後の活動とつながりを考えて実践していくことが重要です。

